

# SOCIUS

No.12

2017

[ソシアス] 仁愛女子短期大学 地域活動実践センター



<b>1. はじめに</b>	
「地域づくり」は「未来づくり」	澤崎 敏文 1
<b>2. 公開講座・講習会</b>	
・生活とデザインセミナー 「好きなこと、働くこと。」	浅野桃子、上出恵悟、新山直広 2
・幼児教育学科公開講座 「幼児教育・保育のこれから - 要領・指針の改訂をふまえて -」	大豆生田 啓友 6
・仁愛食育推進事業 「仁愛食育講座・親子クッキング」	森 恵見 11
・保育者ワークショップ 「子どもの心を惹きつける簡単マジックに挑戦！」	江端 佳代 14
「昔遊びを楽しもう！」	内田 雄 16
・新人保育者スキルアップ講座	中尾 繁史 18
・OGのつどい	中尾 繁史 19
・Microsoft Excel 基礎講座・応用講座	平塚紘一郎 20
・おじいちゃん、おばあちゃんのための孫育て講座	江端 佳代 21
・プレゼンテーションのコツを学ぼう	澤崎 敏文 22
<b>3. 森田地区まちづくり協議会と仁愛女子短期大学との連携事業報告</b>	小角 佳子 23
<b>4. 自治体等との連携事業（福井市・福井県）</b>	
・もりた夢駅～冬物語	内山 秀樹 25
・もりのわフェスタ	内山 秀樹 26
・ふく <sup>2</sup> ベジ・ファースト応援事業、食育推進事業	牧野みゆき 27
・未来アトリエ ― 輝く女性になるために	澤崎 敏文 28
・女性ヘルスアップ事業 ～ちよい足し健幸レシピの開発・普及～	牧野みゆき 29
<b>5. 多文化体験プログラム(英語であそぼう)</b>	
・多文化プログラムの開催	野本 尚美 30
<b>6. 図書館企画展示の活動報告</b>	竹下 真弓 32
<b>7. 子ども家庭センター</b>	
・平成29年度報告 AOSSA子ども家庭センター 子育て支援室 相談室・子ども家庭センター 子育て支援室 相談室	34
<b>8. 学生の社会的活動報告</b>	
・『森田人(もりたびと)』～住民参加によるコミュニティトラベルガイドブック～	36
・坂井市まちづくり協議会のオリジナルキャラクター制作	36
・じんあいこどものくに	37
・ネパールでの活動を通してできた目標	38
・栄養研究サークル	39
・子育て応援団「すこやかふくい2017」	40
・ハーモニーホールふくい ふるさと子どもコンサート すてきなおねえさんの楽しい童謡とわらべうた ～手遊びとともに～	40
<b>9. 学生ボランティア活動報告</b>	
・英語サークル	41
・パソコンボランティアサークル	41
・写真サークル	42
・折り紙サークル	43
・ボランティアサークル	43
<b>10. 平成29年度 地域活動実践センター活動報告</b>	
・管理栄養士国家試験対策リカレント講座	44
・公開講座開催一覧	44
・教員の地域活動一覧	48
・教員免許状更新講習	50
<b>編集後記</b>	53

はじめに

## 「地域づくり」は「未来づくり」

地域活動実践センター長 澤崎 敏文

変化の時代だといわれて久しいですが、本学が位置する福井県も近年大きな変化が訪れています。2018年度は福井県では2度目となる国民体育大会（国体）が開催され、5年後に迫った北陸新幹線の福井延伸に向けて、市街地エリアをはじめ様々なところで都市整備が進んでいます。一方で、国際化が多文化共生へと発展し、国際交流、国際貢献といった海外に目を向ける時代から、訪日外国人の増加等海外から注目される時代、多様な価値観を持った人々がお互いに理解して共に生活する時代になりつつあるといわれています。加えて、今年は37年ぶりとなる豪雪が本学も含めた福井県地方を襲い、全国的にも大きなニュースになりましたが、除雪の対応など行政と自治会等地域の新たな課題がクローズアップされた年でもありました。このような中、「まちづくり」「地域づくり」といったキーワードが頻りに登場してきますが、この激動の時代に即した「地域づくり」とはどうあるべきかが問われ始めています。

一方、教育の現場では、アクティブラーニングというキーワードが旬です。アクティブラーニングとは主体的な学び。そして、本学では、様々な機会をとらえて、学生が主体的に学ぶことができる場を学内だけに留まらず、学外にも広げています。私の研究室でも、福井県、福井市等の自治体をはじめ、様々な企業や団体の方々

との連携協力を要請されることが多く、学生らが授業の一環として地域の方々と交流する機会も増えてきました。これらは一見すると、実学主義的に聞こえるかもしれませんが、社会と関わりながら学ぶことは応用の連続であり、不確実性への対応の連続でもあります。冒頭に変化の時代と書きましたが、変化のなかった時代はありません。仏教にも「諸行無常」という言葉がありますが、世の中が常に変化し、一定ではないからこそ、その変化に対応しイノベーションが起きます。この変化の時代に、地域というフィールドに飛び出て、教室での学びをリアルな学びに変換させることは、究極の教養教育ではないかと考えています。

次の時代を担っていくのは現在を生きる若者です。変化に迅速に対応できる若者が、今こうやって大学を飛び出し、いわゆる地域づくりに参加しているからこそ未来は明るい。現在というこの土台は、過去があるからこそだと思いますが、その現在をしっかりと築き上げることは、未来への礎を作ること。そういう意味でも、地域づくりは未来づくりだと思うのです。

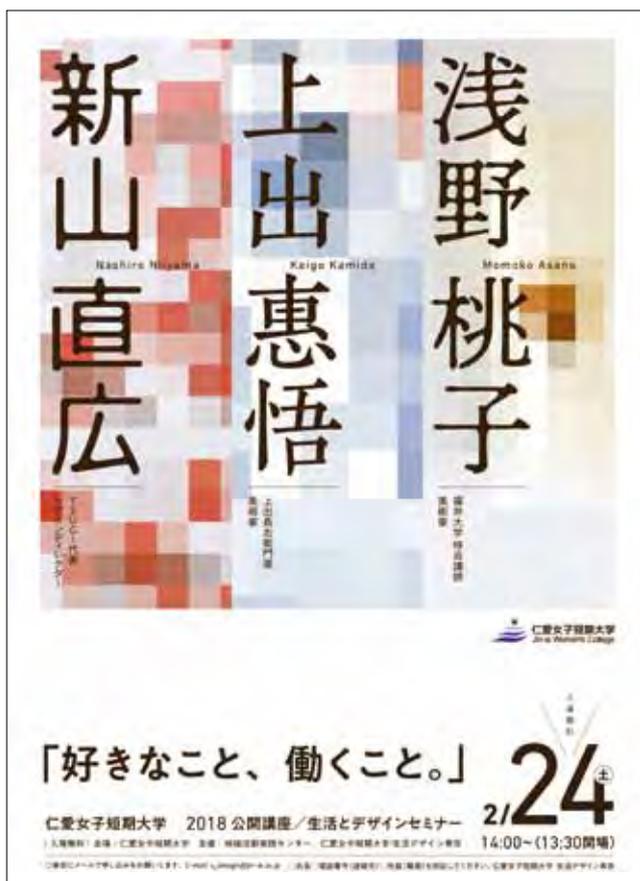
今、大学が地域に出て実践活動を行っていくことの意義を再度問われている気がしています。その為には、まずは教員・学生自らが行動すること。地域活動実践センターは、今後もそのような地域との橋渡しを果たせるような機関でありたい。そう思うのです。

生活とデザインセミナー

「好きなこと、働くこと。」

平成30年2月24日(土)

浅野桃子、上出恵悟、新山直広



〈概要〉

東京で絵画を学び福井へやってきた浅野桃子、東京で絵画を学び実家の家業を継いだ上出恵悟、京都で建築を学び福井でデザイン事務所を立ち上げた新山直広。3名の三者三様のクリエイティブな仕事についての対談。

第一部 (自己紹介)

浅野桃子 (ASANO Momoko)

福井大学 特命講師/美術家

仁愛女子短期大学 非常勤講師

制作する場所や発表する場所にフォーカスした現代アート作品を制作している。福井市のE&C galleryでの個展『沼世、ここ世 Swamp,Here』でのインスタレーション作品を紹介。生まれてはじめての福井で経験した天候や様々な事柄から「灰色」(グレーのグラデーション)の美しい世界を覗いた作品を展示。日々生活している中で出会うモノやヒトやコトの断片を欠片にしながら作品を制作している。

また、ローカルとローカルをつなぐwebメディアで real local 福井でライターの仕事もおこなう。

2018年には福井の文化拠点となるべくHAI studioを開始する。福井市街地にある物件からはじまる新たな試み。アーティストインレジデンスの「場」としてHAI-AIR fukuiを開始する。福井市街地でアートイベントなどもおこなう予定。

キーワードは「わたしを楽しみつくそう」

美術家としての活動の中で福井も活動の拠点としていこうと考えている。福井を全くを知らずしてやってきたが多くのクリエイターに出会えてよりクリエイティブになれたと感じている。





## 新山直広 (NIYAMA Naohiro)

TUGI代表／デザインディレクター

半径10km圏内に産業が集積している鯖江市河和田で活動。2013年サークルとしての活動をスタート。大阪6人鳥取1人山形1人が移住したメンバーにより構成。

(のちデザイン事務所として活動)

キーワードは「創造的な産地をつくる」

地域(福井)の隠れた原石や地域資源を見つけ、磨いて、伝えることにより価値化することで県内外への気付きを目指す。

時代の変化に向き合って考えて行動出来る人、会社を増やす。

ものづくりの産地はつくることに特化していたが、生き残ることを考えると、デザイナーだけでなくみんなが自身で考え工夫する産地にしていきたい。

「支える・作る・売る」

企業・商品価値を高めるブランディング。

地域でデザインをするためには人に伝わるものをつくり、売るための販路を考える。

産地を盛り上げるためにロゴマーク、カタログ、HP、パッケージデザイン、空間デザイン、お店のサイン等広

い分野の仕事。トータルの見え方を伝えられるように心がけている。

アクセサリー、お弁当箱等を作り、期間限定ショップでSAVA!STOREで販売をも行っている。

また福井に来てもらうきっかけとして工房見学『RENEW』を開催している。伝統的工芸の需要減少、後継者問題を背景に持続可能な仕組みづくりを工場見学を通して県内外の人に知ってもらう活動を年1回(10月)におこなっている。去年は中川政七商店と共催したことで、来場者数、売上共に向上した。産地の人たちの熱量が上がり、自信がついたことが大きな利点である。それだけでなくこの町で働きたいという人が増えた。伝統工芸とは職人が淡々とモノを創っているイメージがあるが、河和田は若い人が多く、ものづくりがしたい人たちが県外から集まってきているので、自分たちのつくりたい産地のイメージにむけて若い人たちや助けてくれる大人・企業が集まって盛り上げようという雰囲気になっている。

「領域を超えて、必要なことはなんでもやる。産地に特化したデザイン事務所」ある時はアクセサリー屋さん、ある時はイベント屋さんとして福井の可能性を広げていけるように今後も活動を続ける。

## 上出恵悟 (KAMIDE Keigo)

上出長右衛門窯／美術家

実家が石川県能美市で六代続く九谷焼の窯元で明治12年創業、割烹食器を分業ではなく一貫してつくる。家業を継ぐきっかけになった理由のひとつは「笛吹」という実家で作る湯呑が好きだったから。実家では好き、嫌い関係なく焼き物に囲まれて生活していた。大学生の頃、金沢のある茶房で使用されていた湯呑について友人に聞かれ「これは実家で作ってるものだ」という会話をきっかけに「会話が生まれる器」の素晴らしさに気づいた。「笛吹」を広めようと絵付けのモチーフは笛以外に身近な楽器に持たせかえた図柄で器をつくった。また2010年にはハイメ・アジョン氏とのコラボレート食器を手がけた。デザイナーが入って絵付けを大切にしている商品は珍しい。

5月の『窯まつり』では普段商品にならないもの（B品）を売り、轆轤入門絵付入門などが出来る。これらを通して「師匠」と「弟子」の疑似体験が出来、入門してくれた方には門下生バッチを進呈している。

「KUTANI SEAL」

転写技術を使ったやきものが増えている。手描きを続けている産地で転写技術が増えると手描き技術がなくなってしまうことを危惧し、互いが共存するために転写と手描きを区別させた「転写のブランド」をつくり広めている。「小鳥の箸置」「わんわんのぺろぺろスプーン」「neko Jealousy」は動作がデザインの一部になり、「使いたくなるモノ」をつくっている。丸八製茶場などともコラボレーションしKUTANI SEALの可能性は広がってきている。

窯元には大学時代の仲間も増え、チームとして一緒に頑張っている。

## 第二部

三者三様の活動を紹介していただいたのち、対談。

（浅野）上出さんは大学ではファインアートをやっていた

が、今は商品のデザインもするし、ディレクションもする。新山さんは建築を学びデザイナーという職業では収まりきらない仕事（まちづくり、地域づくり）をする、おふたりとも多様な働き方をしているので肩書がひとつに収まりきらないですね。でもいろんなことをやりやすくなったので、ストレスfulにならず、やりたいことをやることができる時代になってきていると感じます。

（新山→上出：東京から石川に帰った理由は？）

（上出）現代美術をやっている中で、モノとして強度を感じられなかったので、日本美術、工芸に興味を持ち始めました。家業を続けるためには残された時間が無いと感じたことも理由のひとつです。

父親には業界的に先が見えないので帰ってくると言われてきました。

そして、仕事をもっと開かれたもの、身近なものにすることが大切だと思いました。可能性として面白いと思ったことをやってみるということを最初は積極的にしていました。

自身の名前ではなく、窯の名前が全面に出る仕事は僕の個人のエゴみたいなものを超越して新しい挑戦ができる気がします。

（浅野→新山：新山さんの福井でのスタートはどんな感じでした？）

（新山）建築家になりたいと思ったけれど、どんどん建てる時代ではもはやなかったんです。福井に来てすぐはやっぱり大変でした。うまくいかなかった理由は3つあります。

- ・車の免許もなくやってきた事
  - ・同世代がいなかった
  - ・自分の力量が分からず仕事の仕方が分からなかった
- 数年悶々としながら生活していましたが、仲間を集って「TSUGI」を立ち上げました。

（浅野）クリエイティブな仕事は用意されているわけではないので、自分で工夫してどれだけ熱量を持っているかで仕事につながりますね。

（新山）福井はあまり観光で来るというイメージの場所ではないが、福井のおおらかな地域性はやりたいことがやれる環境として整っています。

**(浅野)** それぞれがもたれかかるわけではなく、ほどよい距離感から見合っていて自立した関係を保ちながらつくりあげていける環境が福井でならできると思いますが。そういうことが福井や北陸での一步をより進めやすくなっている気がしますね。

仕事をしている人たちが心から面白いと思って仕事をしていると地域により豊かな印象を与えたいと思います。

**(新山→浅野:1年経ちましたが福井はどうですか?)**

**(浅野)** 一年経ったら東京に戻るつもりだったけれど、新しいプロジェクトが始まるのでまだ福井にいます。福井の人たちは控えめだから良いところを自慢しないので、自分で一年間ほんとうによく街を歩きました。柔らかくて、優しい場所ですね。程よい距離感で生活している場所だなと感じました。

だからといって永住を決めたわけではなく、活動の拠点がひとつ増えたという感覚です。

**(上出)** 北陸は案外つながらないけれど、つながっていきたいという想いがあるので、つながっていける活動になれば良いと思います。

みんなで一緒に良い働き方、生き方を見つけてい

きたいですね。

**(新山)** 自分の人生は楽しい方が良い。いい仲間恵まれ、やりたい仕事でご飯が食べられているから自分が幸せだと思っています。これからまた悶々とするところもあるかもしれないが、デザインを学んだ人たちだからこそ、デザインの思考を活かして社会でつながってくるので、一緒になにかできるというなと思います。

この講演会に来てくれた人の中に仁愛女子短期大学の卒業生もたくさんいますが、今、展示されている卒業制作は自身の宣言文のようなものだから、課題から本質を見つけて役立ててほしいです。

**(上出)** 外から来た人は地域に新しい風を吹き込むけれど、地元の人が変わることが大切。産地、地域が変わるためにはインサイダーから変わっていくことが大切だと思います。

**(浅野)** 外から福井にやってきてここでやりたいという気持ちが出てきました。福井はいろんなものをつくりあげていけるポテンシャルをもっています。北陸全体で頑張っていきましょう。



幼児教育学科公開講座

幼児教育・保育のこれから —要領・指針の改訂をふまえて—

平成29年10月28日(土) 14:00~15:30

玉川大学 教育学部 教授 大豆生田 啓友

はじめに

今日の話題は、教育要領、保育指針、教育・保育要領の改訂(改定)ということが背景にあります。詳細な説明というより何が大事なのかをお話いたします。これから私がお話させていただく内容は、今回の教育要領や指針の改訂(改定)の中にふんだんに織り込まれておりますので、なるべくたくさんエピソードを話しながら進めたいと思っております。

鯉のぼり

私は仕事柄いろんな園に行きます。この事例の園を訪問した時はゴールデンウィークの頃で、鯉のぼりがたくさん飾られていました。年長児がグループごとに2週間かけて作った鯉のぼりだそうです。製作過程では、年長児たちが「こうしよう、ああしよう」と話し合っていたそうです。この鯉のぼりは、布を染めて、しかも縫い合わせているのです。子どもたちは話し合いながら、作りたい鯉のぼりを実現しているのです。このような製作過程ゆえ、子どもたちは自信満々です。私のところにきて「おじさん、これさ、俺たち作ったんだよ」と自信に満ちあふれています。させられることが多い子どもたちは雲泥の差です。

そんな鯉のぼりを座って園長先生とおしゃべりしながら見ていると3歳の男の子が走ってきて、ソファーに座っている私の膝に座りました。こういう子いますね、初対面なのに平気で人の膝にちょこんと座って、初対面なのにずっとひとりごとでしゃべりかけてくる子。髪の毛をかつこよく立てていたので、誰が切ってくれるのと聞いたら、男の子は「え?先生」って言うんです。先生が髪の毛も切ってくれるのかと聞くと、園長先生があ

わてで「先生が切るはずないでしょう、嘘言っちゃだめよ」って言うわけです。この男の子、さらに外を見ながら鯉のぼりを指さして言いました。「俺もさ、鯉のぼり作ったんだよ、あそこに」って言うんです。はいはい、って思いながら聞いていたら「俺さ、作って持って行ったら、年長がお前いいやつだからいいよって飾ってくれたもん」って言うんです。はいはいって思ってた聞いていました。そしたら彼が「俺さ、新聞紙で作ったんだよ」って言うんです。たくさんある鯉のぼりをよく見ると、中に新聞紙の鯉のぼりがあります。え!あれのこと?と尋ねると「そう、俺が作った新聞紙の鯉のぼり」と言いました。

園を訪問した時間は、他の三歳児たちは部屋に集まっている時間です。部屋から抜け出てきたとすると、部屋に戻らないと悪いと思い、担任の先生のお名前は?と尋ねると「りょうこ」って彼が言うんです。さらに「りょうこさ、いつもさ、俺のことかわいいかわいいって言うんだよ」って言うんです。それを聞いていた園長先生も「あたしも言うでしょ!あなたのことかわいいかわいいって!」と仰っしゃいました。

この園の年長児は、自分のやりたいことを夢中になってやり遂げる経験をしています。これは成功体験です。夢中になって、自分のこうしようという思いを達成している子たちは、明らかにその後の育ちに影響を与るといわれています。また、3歳の彼も周囲の大人から肯定的に受け止められています。乳幼児期に適切に受容され肯定された子たちは、そうでない子たちと比べて、その後の育ちが良いということがわかっています。これは簡単なことではありません。この男の子のことを多くの仕事をこなしながら肯定的に受け止められるでしょうか。また、子どもたちが夢中になってやりたいことをやり遂げる保育ができるでしょうか。これはプロの仕事です。ただ、肯定的に受け止めるよりも怒るほうが、



遊びの中で学ばせるよりも『させる保育』をするほうが、コストがかからない場面もあるでしょう。つついそうなっている現実があるかもしれません。

## これからの“遊びが学び”

今世界は保育の質に注目しています。それはたくさんの研究の成果が、乳幼児期に良い保育を受けた子はその後の育ちにより影響があることを示しています。50年以上前のアメリカでの研究ですが、3歳から幼児期に質の高い良い保育を受けさせました。ここでいう質の高い保育とは、子ども主体の遊び中心の保育、さらに保護者への支援です。この研究の結果はすぐには出ませんでした。追跡調査から驚くようなことが分かりました。良い保育を受けた子は高校の卒業率が明らかに高い。収入が高い。持ち家率が高い。離婚率が低い。犯罪率が低い。生活保護需給率が低い。つまり良い保育を受けた子たちは、大人になって経済力が高く、幸せになっている子たちが明らかに多かった。他の研究で

も似たような結果が出ています。つまり、子ども主体の保育を行うこと、あるいは親への支援を行うことは、その子の人生に影響を与えるだけでなく、その国の経済に影響を与えるのではないかと、ということなのです。だから良い保育のためにお金をかけようっていつているわけです。日本の政治家もこの話を知っているから幼児教育の無償化って出してくるんです。でも幼児教育の無償化だけでは、上がらないんです。ここで言いたいことは、保育のお仕事は、その子の人生やその国の将来に影響を与える可能性があるくらい重要なことだってことが、世界では話題になっている。ではそれは何を育てたからそんなに成果があったのか。これが今回の保育指針・教育要領の裏のキーワードになっている「非認知能力」というやつです。これを幼児期に育てたかどうか極めて重要であるということが今回の保育指針・教育要領の重要な基盤になっています。

ベネッセの研究でも、園で遊びこむ経験が多い子の方が、小学校以降の学びに向かう力が高いことがわかっています。一斉保育よりも、子どもの主体性を重視した自由保育をしている園の子どもの方が、語彙が豊

富であるという研究もあります。語彙が多いということは、学力全部に影響を与えます。それくらい重要なことなのです。早い時期から勉強をさせたほうが将来勉強のできる子になると思いがちですが、逆です。今回の改訂は、そう考えると小さな改訂(改定)ではありません。これまで教育の始まりは小学校であるかのように位置づけられてきました。今回、改訂(改定)で何を一番大事にしているかという、アクティブラーニングです。もう紙の上の勉強ができるだけではだめなのです。これからは自分で調べたり、考えたり、話し合ったり探求したりする必要があります。そして、それは保育園・幼稚園・こども園からスタートします、と位置づけられました。だから教育の始まりは、保育園・幼稚園・こども園なのです。「遊びが学び」はこれまでもやってきたことです。ここが充実することがスタートになります。だから保育所・幼稚園・こども園の3歳以上は同じ教育がありますと位置づけました。しかも、今まではまるで小学校の準備のために「ここまでできるように」というようにやってきたのですが、これからは違います。遊び仕立てのところから1年生の授業を始めてください。今までのように、はいこれからは一斉授業です!ではなく、「遊びが学び」を受けて、1年生をスタートしてください。だからこれから小学校との関係が変わるはずです。「遊びが学び」が大事なのだと位置づけられたわけです。遊びをけっこうやっているという園も、それが本当に学びになっているのか、ちゃんと説明できることが大事です。砂場で遊んでいました、だけではダメで、砂場でこんな経験、こんな風な育ちが見えてきました、と言えることがプロのお仕事です。ただ預かっているだけではなく、豊かな経験をさせてください。親たちにも「遊びが学び」を説明できるようにしましょう。

例えば、0・1・2歳の保育って、安全・安心・預かるだけだと思われるかもしれませんが、園によって全然違います。この写真は0歳児の2月頃の写真なのですが、だれもお背中べったんせずに絵本を見えています。絵本が面白くて仕方がないんですね。先生のひざの向こうに、絵本が10冊くらいあります。子どもたちがもう一冊もう一冊って言うんです。なぜこんなに絵本好きな子た

ちになったのでしょうか。

私の研究グループで、絵本と保育の勉強会っていうのを公立保育園の先生たちとやってみました。この担任の先生は、0歳児の研究グループに参加していました。0歳児クラスなんて絵本どころじゃないです、前半はね。後半になってちょっと絵本のことが面白くなってきた時期に、0歳児担当の先生たちに質問をしました。赤ちゃん向けの絵本は、顔が出てくる絵本が多いのをご存知ですか?と訪ねても先生方はわからないというので、赤ちゃんは顔が好きで、顔から情報を読み取っていることを説明しました。だから、保育士は、特に小さい年齢の子どもに関わる際に、あまりマスクしないほうがいいって言われているんですね。NICUでも、赤ちゃん向けには看護師さん、なるべくマスクしないで関わろうっていう取り組みがあります。つまり、あの人たちは赤ちゃんじゃないんです。という話をしたら、この先生面白いんです。いろんな顔が出てくる赤ちゃん絵本を、全部読んでみるんです。そしたら、1冊子どもたちがえらく面白い絵本があるんです。どんな絵本かって言うと、顔写真が出てくる絵本です。絵で書いてあるより、写真で顔が出てくるほうがウケるんだと思って、この先生ちょっと工夫しました。どんな工夫かって言うと、0歳児の担当の先生6、7人いるので、その中の4、5人の先生に協力してもらって、こんな写真を撮ったんです。○○先生が、いないいなーいばあ!って写真です。これを引き伸ばして台紙に貼り付けて、なんとか先生が、いないいなーいばあ!って、簡単な手作り絵本を作ったんです。そしたら大人気です。0歳児担当の方いらしたら、年明けくらいから、これ絶対いけますよ。もうウケるウケる。私も見に行きましたけど、面白い面白い。もう一回もう一回と延々続くわけです。あんまり毎日なんで、この先生さらに工夫しました。子どもの顔写真撮ったらどうなるだろう。親たちの許可を取って、なんとかちゃんがいないあいばあ!ってやったら、みんな真剣な顔して見て、そのあと、前見るだけじゃなくて横見るんです。お前、いつも泣いてるのに笑ってんじゃん、みたいな感じで。面白いくらい横見るんです。このあといないあいばあ絵本がえらくブームになっていくわけです。だから



この先生が絵本を読むと、子どもたちがスーッと集まってくるんです。1、2年目の若い先生がいるんですけど、私のところに全然来ないと嘆くんですって。子どもたちは、最初は誰が読むと面白いってことから入っていくんですね。しばらくはそうなんだけど、だんだん若い先生でも、うまくいくようになっていくんです。保育って、ちょっとした工夫なんだなって思います。

この先生は0歳児から1歳児に持ち上がりになりました。そしたらまた面白いんですけど、やっぱりこの先生が絵本を読むとブームが起こるんです。『おおきい小さい』という絵本があります。この絵本、大きい、小さいって、何度も出てくるんですけど、その度に1歳児クラスの子どもたち「おおちいね、おおちいね」としか言わないんです。1歳児で大きいとか小さいとかわかるのかしら。じゃなんで小さいって言わないのかな？毎日大きい大きいなので、先生ちょっと工夫しました。子どもが、今これが面白いんだって思ったら、じゃあこういう環境を用意してみようっていうのがプロの仕事です。どういう環境を用意したか。壁面に動物の写真を張ってみました。壁面はうさぎちゃんとか無駄に貼る必要な

いんです、むしろ写真が効果的です。いろんな動物の写真貼ったんです。そしたら子どもたちは、「これ、これ」とか言いながら、写真のことを一生懸命言うわけです。写真の中に、象が写っています。「象おおきいね、象おおきいね 象おおきい、象おおきいしか毎日言わなくなってくるんです。子どもたちは象が気に入ったらしく、「象が大きい」になんとか応えられる絵本がないだろうか？そうです、子どもが面白いと思ったら、じゃあどう手を打とうかを考えるのが保育です。遊びが学びになっていくのが保育です。園には象の絵本はありません。先生がインターネットで探してみると、こんな本がありました。『ぞうはおおきい』早速これ買いました。この本読んだら面白いんですよ、こんなに大きく開くんです。象は顔が大きいって先生が言うと、子どもたちは「おおきいねー！」、象の鼻は？って言うと「ながーい！」って子どもたちノリノリなんですよね。

この先生、大きな声では絵本を読みません。小さな声で読みます。いろんな子たちが寄って来ますが「そうだね、はい、じゃあ座ってね」って丁寧に、力づくで聞かせないんです。面白いから聞いちゃう。だからお

背中ペったんなんかこの子たちにあまり必要ないんですよ。こんなふうになんか夢中になってくわけです。そうすると毎日面白い面白ってなってくわけですけど、「先生、うちの子、象、象、象、象、言ってるんですけど、何がありましたか」って親から聞かれる訳です。この先生もなかなかの人で、「いま1歳児クラスは象の研究やってます」って言ったそうです。もう親たちもメロメロです。僕ね、よくわかりました。いい保育は、親たちを巻き込む。親たちがファンになってきます。

そのあと、この先生は親たちにもっと伝えなきゃと思って、写真一枚貼り出すんです。今日こんなこと面白かったですってという写真1枚。これがもっと親たちを巻き込んでいきます。本当は遠足で動物園に行って、子どもたちに象を見せることができたらよかったんですが、遠足の予定は決まっていたので変えられないんです。そこでこの先生は一人で動物園に行ってきました。そして象の写真いっぱい撮ってきて子どもたちに見せたら、子どもたち大ウケで、動物園に行きたいって話になるんですけど行けません。それで親たちに、写真見せたら大ウケでしたって話したら、翌日から、色んな子たちが、親子で動物園に行ってくるんですね。動物園に行くと象のTシャツ売ってるらしくて、クラス中、象のTシャツを来ている子たちになったそうです。このあと象からシロクマブームになるんですけど、この話は長くなるので別の機会にします。

行事でもいいし、普段の遊びの中でもいいんですけど、こうやって子どもと話し合いながら、子どもの声を聞きながら、作っていくような保育がこれから重要になってきます。ある園では、今までだったら、5歳児が4月にオタマジャクシを持ってくと「よかったね、じゃ今日これ持って帰ってね」で終わっていた話を、子どもた

ちに「このオタマジャクシどうする？」って聞くように変えました。すると「飼いたい」という話になりました。じゃあ、どうやったら飼えるだろうか。生かしていくために器だとか何が必要かを全部子どもたちと話し合いながらやっていきました。その後子どもたちのアイディアでオタマジャクシ研究所ができ、親たちも巻き込んで2か月間、オタマジャクシが蛙になっていくまでのプロセスを研究しました。本当に面白い事例でした。誰が一番喜んだのかといえば、ベテランの先生方でした。「こんなに楽しい、保育って楽しいと思いませんでした」という先生もいました。そうです、させる保育をしていたら面白いはずがない。この仕事の何が面白いかといえば、子どもと一緒に作っていくから面白いんです。先生がわくわくして、先生が保育が楽しくなってくる。誰が一番得をするか、それは子どもです。いままでさせられるだけだったのが、自分たちがやろうとすることが実現していくわけです。この事例の子どもたちは本当に意欲的な子どもになりました。また、親たちが保育にもものすごく参加するようになりました。親たちが園の保育を理解するようになりました。そして小学校からも理解が得られるようになりました。今までは“遊びが学び”の意味がわからなかったけど、園の取り組みからよく理解できるようになったとのことでした。

これからの保育は、遊びが学び、しかも子どもたちの成長にあわせて、あるテーマでもって遊びが継続するような保育が求められるのだと思います。子どもの笑顔がこれから先も続いていくということが大切です。保育に携わる先生方の日々の保育のおかげで子どもたちの未来があります。保育者を志す学生の皆さんにも、ぜひ仲間に入っていただければと思います。

(文責：中尾繁史)

仁愛食育推進事業

仁愛食育講座・親子クッキング

生活科学学科 食物栄養専攻 講師 森 恵見

1、はじめに

食育講座と親子クッキングは、食を通して、参加者同士が和気あいあいと参加し、そして少しでも新しいことを得て帰っていただけるような献立を考えております。学生2名も加わり、参加者の方々と一緒に講座を盛り上げてくれました。

2、講座内容

【第1回】6月10日（土）

～美味しいダシをとって日本食を楽しもう～

- ・新生姜の炊き込みご飯
- ・スペアリブの梅干し甘辛煮
- ・夏のなます
- ・吉野鶏のお吸い物



近年、世界では日本食ブームです。日本人として忘れてはならない、ダシの文化を一から確認するため、第一回はダシをテーマに開催しました。家庭で簡単にダシができる粉末のダシが売られていたり、簡単にダシをとるのではなく、講座では、時間をかけてダシを取りました。一番、昆布のうまみが出る温度を調節し、鰹節の香りが引き立つ方法でダシをとりました。

参加者からは、試食の前にもかかわらず『調理室中



ダシのいい香りね。』

『おいしそうな匂い。』とダシの香りを楽しんでもらえました。面倒なダシを丁寧にとることにより、日本人で良かったなと思えるような味わい

を経験していただきました。



【第2回】7月15日（土）

～夏の野菜、茄子で中華料理～

- ・麻婆茄子
- ・蒸し茄子と糸寒天のサラダ
- ・茄子蛋花湯
- ・牛奶豆腐

夏野菜である茄子ですが、主菜・副菜・汁物全て、茄子をメインにした料理を作りました。体を冷やすと言われていた夏野菜、この時期にたっぷりと摂りたい食材です。

炒める前に、材料を熱した揚げ油に入れてサッと火を通しておくことを「油通し」と言います。参加者に、麻婆茄子を作る際、茄子を一度揚げる人はいませ



んでした。家庭では揚げ物が懸念されがちですが、油通しは、実は、素材に油の膜がつくため、炒め合わせるときに素材の水分や香りが流出せず、シャキッと色よく仕上がります。講座では本格的に、油通しや、火の通りやすい中華鍋・蒸し物は蒸籠を使用し本格的な中華料理を作っていただきました。

【第3回】9月5日（火）

～西洋料理を可愛くおいしく食べよう～

- ・鶏のパプリカ煮
- ・シーザーサラダ
- ・アイスボックスクッキー

パプリカ煮には、パプリカの粉を使用して、鶏肉を煮込みました。パプリカといえば、赤いピーマンのような野菜ですが、唐辛子に似た独特の風味を持っています。しかし、味や風味が穏やかなため、大量に投入



しても料理の味を損なわないと言われます。鮮やかな赤色で、黒く焦がさない限りは調理しても赤みを保つため、料理を彩る色彩としても用いられます。今回作ったソースを参加者から“一滴残らず食べてしまう”という声を聞きました。残ったソースは、バターライスと一緒に食べている方が多く、お皿の綺麗な方が多かった料理でした。シーザーサラダは、ドレッシングを一から作りました。



アイスボックスクッキーですが、生地は時間がかかるため、私たちの方で用意させていただきました。プレーンやココアのクッキー生地だけでなく、野菜や果物のパウダーを混ぜて、ピンク・紫・オレンジなど合計7種類の生地から好きな色や味を選んでいただき、かわいくおしゃれなクッキーを作ってもらいました。参加者から、“久々にクッキーを作ると面白いわね”と、少し粘土遊びのようですが、楽しんでもらえました。たくさんできたので、お家に持って帰っていました。

【親子クッキング】8月7日（月）

～親子でアジをさばこう！～

近年日本では、肉の摂取量が多く魚の摂取量が少なくなってきたり、魚離れが進んでいます。その原因としてあげられるのが、子供の魚嫌い・調理が面倒といった理由です。また、農林水産省の報告によると、30代主婦の7割が、おろし方が分からないなどの理由で魚をおろさないそうです。子供のころから魚に親しんでほしいと思います。

実習中は、なかなか上手くおろすことができなかつたようですが、自分で調理したものはおいしかったようです。たくさんの親子の笑顔がありました。親子で料理をすることで、夏休みの思い出になったようです。



### 3、おわりに

この食育講座は、短大の実習室を使い設備がそろい広々と使える事や、グループで一緒にできる事、若い学生と一緒に気分が若返る事、料理のレパートリーが増える事等、何かしら良い点があるのではないのでしょうか。

今年の講座は、講師の都合により予定が一部変更となったことをこの場を借りて、お詫び申し上げます。来年度も、引き続き皆様に喜んでいただけるよう、楽しい内容を考えております。皆様のご参加をお待ちしております。

## 保育者ワークショップ

# 子どもの心を惹きつける簡単マジックに挑戦!

幼児教育学科 講師 江端 佳代

### 【講座要項掲載内容】

テーマ:子どもの心を惹きつける 簡単マジックに挑戦!

誕生会やちょっとした出し物で使えるような簡単マジックを作って、演じてみましょう。子ども達は、先生のマジックに釘付けです。そして、「どうして?」「なんでだろう?」と一生懸命考えます。手品は子どもの探求心をくすぐり、物事をじっくり考え、答えを導き出す力も身に付いていきます。

### 【開催日時】

平成29年11月12日(日) 13:30~15:00

### 【講座内容】

子どもたちは周囲の環境に興味や関心をもって関わる中で、驚いたり、嬉しくなったり、不思議に思ったり、なぜだろうと疑問に思ったりなど心動かされる体験を重ね、その体験から諸感覚を働かせながら、試行錯誤したり、思い巡らしたりします。今回の講座『子どもの心を惹きつける 簡単マジックに挑戦!』では、子どもたちのなぜ、どうしてを引き出せるようなマジックを紹介しました。

しかし、子どもたちの前でいざマジックを行おうとすると、「準備が大変だ。」「失敗したらどうしよう。」と考えてしまう保育者も多いのではないのでしょうか。そのため、今回の簡単マジックは、どこにでもある材料で、それほど練習しなくても成功するようなマジックを集めてみました。

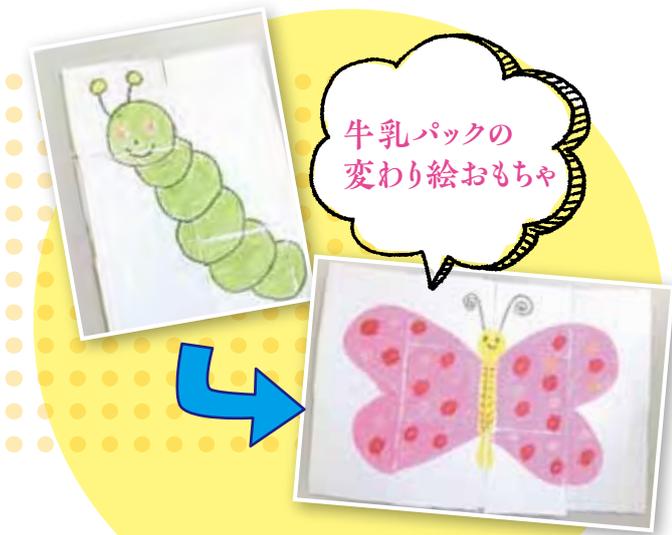
### ■不思議な絵本!

まず、市販されているマジックブック(ミッキーのマジックブック)を紹介しました。魔法の本を取り出し、パラパラとめくって中を見せますが、枠があるだけで何も描かれていません。おまじないをかけてもう一度中を見る

と、すべてのページにキャンデーの絵が現れます。さらにもう一度おまじないをかけると、なんと本物のキャンデーが出てくるマジックです。今回の講座では、クリアファイルを利用して「不思議な絵本」を作成しました。



作り方は簡単で、今回はイラストを使用しましたが、子どもたちが描いた絵ならば、もっと盛り上がります。また、活動や行事、子どもたちの興味や関心に合わせて、保育者が工夫してほしいと思います。



■パツ!と変わり絵～牛乳パックで不思議な変身おもちゃ～

次に、牛乳パックだけで作れる、まるで手品みたいな不思議な変わり絵を作ってみました。この変身おもちゃは、年長児ならば一人で製作できるような、簡単なものです。見本はあおむしからちょうちょになるものでしたが、参加された先生方は、「いないいないばあ!の絵を描いてもおもしろいですね。」とアイデアを出していました。子どもたちもできる変身おもちゃなので、ぜひ園でも作ってほしいと思います。

その他、変身カードや紙コップが持ち上がるマジック、また、何もない紙袋からいろいろなものが出てくるマジックを紹介しました。最後に破った新聞が元通りになるという本格的なマジックを伝えました。このマジックは、少し練習が必要ですが、間違いなく、子どもたちは驚き、不思議がります。マジックはしかけが分かれば、後はどう演じるかです。手順をしっかり押さえて、できれば鏡の前



で、数回練習することをお勧めしました。今回の講座も、最後は鏡の前で、気に入ったマジックを楽しく演じて終わりにしたかったのですが、少しでも多くのマジックを伝えたいと思うあまり、時間が無くなってしまい、鏡の前で演じることができなかったのは残念です。

【おわりに ～参加者のアンケートから～】

「とても楽しかった。」「普段の保育ですぐ使えるものばかりだった。」「子どもだけではなく、保育士も楽しめるマジックだった。」などの感想がありました。時間を忘れて参加者全員で楽しめたようです。子どもたちは、目の前で起こるドキドキしたりワクワクしたりすることが大好きです。好奇心旺盛な子どもたちに、誕生会やお楽しみ会などで、あっと驚くマジックを披露したら、目を輝かせて喜ぶのではないのでしょうか。それほど練習をしなくても、簡単にできるマジックを紹介したので、是非、子どもたちに披露してほしいと思います。



## 保育者ワークショップ

# 昔遊びを楽しもう!

幼児教育学科 講師 内田 雄

### 【講座趣旨】

手玉やけん玉、コマ、わらべうた遊び、鬼ごっこ等、昔からある多様な遊びが現代でも親しまれています。このワークショップでは、「あんたがたどこさ」のわらべうた遊びをベースに様々な遊び方をアレンジしたり、お手玉やけん玉などの遊びを組み合わせたりしながら、楽しく昔遊びに触れてもらいます。

### 【開催期日・場所】

平成 29 年 11 月 18 日 (土) 13:30 ~ 15:00  
仁愛女子短期大学 F101

### 【講座内容】

我が国で伝統的に行われている「あんたがたどこさ」のわらべうた遊びに対し、様々なアレンジを加えていった。ルールがシンプルな遊び程、ルールを工夫する幅は広い。子どもたちの発想で、遊びが発展していく様子を観察することも可能である。今回利用した「あんたがたどこさ」のわらべうた遊びは「まりつき遊び」として広く知られている。この歌では歌詞に「さ」が頻繁に出てくる。歌に合わせてまりつきを行い、「さ」のタイミングで、まりを跨の下に通すというルールが一般的である。今回は、この「歌に合わせて一定の動作を実施していき、「さ」のタイミングで異なる動きを実施するというルール」を利用して様々な遊びを実施した。

まず、最初に実施したのは道具を使わない「あんたがたどこさ」である。その場で足踏みを繰り返し、「さ」のタイミングで体の一部をタッチする。前後にステップを踏む、左右にステップを踏む等のルールを組み合わせでいった。一つの動作では簡単にこな

せるルールも、複数の動作を組み合わせることで難度が増し、「上手いできないこと」の楽しさを味わった。



次に、「田」の字になるようにラインを引き、二人一組で歌に合わせて時計回りにジャンプしていき、「さ」のタイミングだけ反時計回りにジャンプするというルールに取り組んだ。2人一組で実施するため、少しの失敗で上手いできなくなる。参加者は、「上手いできないこと」が明確化され、その楽しさを2人で共有することでより楽しく取り組んでいる様子であった。時計回りのジャンプだけではなく、左右のジャンプを繰り返し「さ」のタイミングだけで前後にジャンプするなど様々なルールに変更することが可能である。

他の遊びと組み合わせた「あんたがたどこさ」にも取り組んだ。今回はお手玉を使用した。まずは、お手玉の基本的な技術を一通り確認した後に、「さ」のタイミングだけ異なる動きをする、といったルールを軸として様々な遊びを実施した。特に重点的に行ったのは「両手2個ゆり」(2個のお手玉を空中で

円を描くように同じ方向に順に回していく技、ジャグリングではシャワーに該当)である。最初は、「両手2個ゆり」を実施しながら「さ」のタイミングで逆回しにするといったルールで実施した。お手玉に慣れてきたところで、2人1組になり、「さ」のタイミングでお手玉を交換するルール、さらに、3人以上で円になり「さ」のタイミングで隣の人にお手玉を渡すルールなどを加えていった。新しくルールを付け加えることで単純にお手玉を実施しただけでは味わえない面白さを味わえた。



最後には参加者で新しいルールの「あんたがたどこさ」の開発に取り組んだ。けん玉や中国コマ、ホッピング遊具、ミニセグウェイ等、様々な遊具を用意し、試行錯誤しながら各人のアイデアを出し合った。

参加者の方々には、今回テーマにした「あんたがたどこさ」の遊び方の幅がかなり広いことを体験してもらえたであろう。既存のルールに縛られるのではなく、子ども達と一緒に遊べば遊びを発展させ、新しい面白さを探していっていただければと思う。



## 新人保育者スキルアップ講座

幼児教育学科 講師 中尾 繁史

日時：平成29年7月1日（土）13:00～15:30

場所：E208 講義室

本学幼児教育学科の卒業生の多くは、幼稚園や保育所、こども園などで幼児教育・保育の仕事に携わっています。社会人として働き始めて3か月経ち、新しい職場に少しずつ慣れるのと同時に様々な悩みが出てくる頃でしょうか。本講座は、新人保育者として益々力を発揮していけるように、実践力の向上と同期生との情報交換を目的として開催しています。今回は平成29年3月に卒業した新人保育者20名が参加しました。

【実技講座】 13:00～14:00

「気になる子への支援教材の作り方」

講師：中尾繁史

気になる子の特性に合わせた支援教材の作成のため、TEACCHプログラムを基礎とした環境構成の視点と、視覚支援の具体例を紹介しました。また、市販の教材を用いて実際の支援場面を想定してみました。



【分科会】 14:15～15:30

「友人と語ろう」

当時のクラスアドバイザーの先生方にもご参加頂きました。



本講座に参加した理由としては、「今後の仕事に役立つと思う」や「気になる子どもを担当しているため、勉強したい」など日々の保育に関係するもの、「久しぶりに友人に会いたいと思った」など様々でした。

実技講座を終えての感想では「みんなと話しあって支援の仕方について学べる機会ができて良かった」「視覚支援の重要性を感じた。先生に質問できてよかった」「予想していたのと違った。作り方は分かったけれど、もっと実用的なものを作ってみたかった」などの感想を頂きました。

分科会については、「みんなと話せて楽しかったです」「久しぶりにたくさん話ができて嬉しかった」「他の職場の話聞いて良かった」「先生と話ができて良かったです」「久しぶりにみんなに会い、色々な話を聞き、これからは頑張ろうと思えました」「いろんな話を聞いて悩みを共有できて少しスッキリした。みんな同じような悩みを抱えていて、大変だけど保育士頑張ろうと思う」などの感想を頂きました。

本講座は、友人や教員との交流によって、現場で役立つスキルを学ぶ場としてだけではなく、卒業生の活力となる機会としての役割も果たしていると思います。多くの卒業生に参加して頂きたく思います。



## OGのつどい

幼児教育学科 講師 中尾 繁史

日時：平成29年10月14日（土）13:00～15:00

場所：C322 講義室

本学幼児教育学科を卒業して4～6年目の保育者を対象とし、保育現場の情報や卒業生の近況など自由に話せる場としての活用を目的として、OGのつどいを開催しました。

当日は大学祭が開催されており、対象の卒業生の他にも多くの卒業生が参加しました。幼児教育学科の多く

の先生方もご出席くださり、近況報告や学生時代の思い出話、職場での悩みに対する先生方からのアドバイス、卒業生の結婚の報告などもあり、和気あいあいとした歓談が行われ、参加者は思い思いの時間を過ごされました。



# Microsoft Excel 基礎講座・応用講座

生活科学学科 生活情報専攻 准教授 平塚 紘一郎

## (1) 活動方針

情報メディア教育支援室では、今年度も福井ライフ・アカデミー様と連携し、Excel講座を開催しました。本学の学生や教職員、一般の方が対象です。Excelの操作について学んでいただき、講座で得た知識を普段の生活(例えば家計簿)や仕事で活かしてもらうことが目的です。

昨年度と同じく「Excel基礎講座」と「Excel応用講座」を開催しました。まず、Excelの操作が不慣れな方にも基礎から学んでいただけるように基礎講座を開講し、基礎講座の内容をもとに応用講座を開講しました。Excelの基礎ができている方は基礎講座を受講せずに、応用講座のみを受講することも可能です。2回の講座ではExcelの機能をすべて取り扱うことはできませんが、なるべく普段よく使う機能に焦点を当て講座を行いました。

## (2) 取り組みと成果

講座は2回とも本学C108パソコン演習室で行いました。講座の際には本学のパソコンを参加者の方に使用していただきました。この演習室では中間モニタを設置しているため、参加者の方々が操作するパソコンの画面の隣に講師用パソコンの画面が写し出されます。参加者の方々がパソコンを操作の際には、講師の画面をすぐ横で参照しながら行えるようになっていきます。

Excel基礎講座は2017年9月3日(日)の9:00～15:00に行い、参加者は15名でした(一般の方のみ)。基礎講座では、セルへのデータの入力方法、数式・関数の入力方法、罫線や塗り潰しといった書式の変更方法、グラフの書き方といった、Excelの基本操作の一連の流れについて取り扱



写真1 9月3日(日) Excel基礎講座の様子

い、機能の説明をしながら参加者の方にもExcelの操作を行ってもらいました。

Excel応用講座は2017年9月

10日(日) 9:00～15:00に行い、参加者は14名でした(一般の方のみ)。応用講座では、一般の方々がこれまであまり使用していなかったと思われる機能について取り上げました。テーブル、入力規則、関数などです。テーブルは住所録等の管理をする際に便利な機能で、データの並べ替えやフィルタ操作が行え、効率的に表が管理できます。また、入力規則を表に設定すると、セルに入力できるデータの種類等を制限することができます。日付の列に日付以外のデータが入力されたり、数値の列に数値以外のデータが入力されたりするのを防ぐことができます。また、日付や数値の範囲なども制限することができます。表のデータの正確性と一貫性を保つことができます。また関数についても合計、平均といったよく使うものに加え、データの数を数えたり条件によってセルの内容を変更したりするような関数についても取り扱いました。



写真2 9月10日(日) Excel応用講座の様子

## (3) まとめと今後の課題

9:00～15:00(約1時間毎に休憩)という長時間の講座でしたが、参加者の方々には熱心に講座を受講していただきました。講座後に調査したアンケート結果でも、例年と同じく好評を得ることができました。しかし、中には「進む速度が速かった」、「質疑応答の時間がもっとあるとよかった」といったご意見もありました。2日で開催しようとする内容が多くなり、進むスピードも速くなってしまいがちです。取り扱う内容を厳選するなどして改善したいと思います。

今後検討すべき内容としては、昨年度も課題にした通り、PowerPoint、Word等を講座で取り扱うことです。アンケートにも取り扱ってほしいというご意見が見られたため、来年度はWord講座も検討しています。参加者の方のご意見も参考にしながら、今後の講座をよりよいものへと改善していきたいと思っています。

## 公開講座

## おじいちゃん、おばあちゃんのための孫育て講座

幼児教育学科 講師 江端 佳代

今年度、初めて「孫育て講座」を開催しました。初めての講座ということで、森田地区子育て支援委員会に参加させていただき、地区の方々からの意見を参考にしながら、次のような内容で行いました。

## 【第1回 孫育て講座】

## ■第1回 (祖父母のみ参加)



「大切な祖父母力とは・・・」

会場／森田公民館 大ホール  
日時／平成29年12月16日(土)  
10:30～12:00

おじいちゃん、おばあちゃんの偉大なる「祖父母力」について、一緒に語りましょう。

参加者は全員実際に孫育てを行っている方々でした。まず、孫育てを行って楽しいことや困っていることなどを自由に話していただきながら、孫育てをする時のポイント、また森田地区の人口分布図から、森田地区に求められている「祖父母力」は何か、そして、孫育ては幼児期、学童期で終了するのではなく、思春期、成人期まで続き、老いていく姿を孫に見せることも、りっぱな孫育てであることなどを伝えました。

その後、お孫さんと楽しく遊ぶことができる「くるくるヘリコプター」を一緒に作って楽しみました。



## 【第2回 孫育て講座】



## ■第2回 (お孫さんも一緒に)

昔遊びで子どもたちと一緒に遊びましょう！  
～あやとり・お手玉・けん玉・こまなど～

会場／仁愛短期大学附属幼稚園  
日時／平成30年1月20日(土)  
10:30～12:00

仁愛附属幼稚園のお子さんと一緒に、昔遊びで楽しみましょう。お孫さんもご一緒にどうぞ！

第2回目の孫育て講座は、仁愛女子短期大学附属幼稚園4歳児と一緒に、いろいろな昔遊びを楽しみました。今回は、学生手作りの双六を持参し、2回生の学生も一緒に楽しみました。祖父母の皆さんもあやとりやお手玉などを子どもたちに丁寧に教えてくださり、子どもたちからも「できたよ。」など、満足した声があちらこちらで聞くことができました。これらの昔遊びは、世代を超えて楽しむことができます。ぜひ、おじいちゃんおばあちゃん世代からお孫さんへと、昔の遊びを伝承して行ってほしいと思います。



公開講座

# プレゼンテーションのコツを学ぼう

生活科学学科 生活情報専攻 准教授 澤崎 敏文

今年度は新規講座「プレゼンテーションのコツを学ぼう!」と題して、効果的な発表の仕方や伝え方に関する公開講座を実施しました。

日時:平成29年7月22日(土) 午後2時~4時  
場所:仁愛女子短期大学 C館2階ラーニングcommons  
参加者:15名

最近ではプレゼンテーションというと、パソコン等を利用したスライドの作成方法や話し方の技法に注目がいきがちですが、一番大事なことは、伝えたい内容を伝えたい相手にわかりやすく伝えるということ。今回の講座では内容をしっかりと考えて、話の組み立て方を学ぶということに重点を置いて講座を進めていきました。

前半40分間は、それら主旨を踏まえたプレゼン発表に関する座学を行い、後半は、参加者各自が準備してきた内容を、演習活動の一環として発表してもらいました。

テーマは参加者各自が「これまで学んだ、または、学びたいと思っていることについてです。

5分という限られた時間ですが、実際に発表を行うことで、プレゼンテーションのコツを学ぶとともに、お互いの良かった点、改善点も共有できました。さらに、発表内容も参加者同士で共有することができ、学び多き講座となりました。



## 地域連携

森田地区まちづくり協議会と  
仁愛女子短期大学との連携事業報告

地域活動実践センター 小角 佳子

「森田地区まちづくり協議会と仁愛女子短期大学との連携に関する協定」が平成22年8月30日に締結されました。この協定に基づいて、平成29年度も相互に連携・協力して様々な事業を展開してきました。

## 1 森田・仁愛女子短期大学連携協議会

「平成29年度 森田・仁愛女子短期大学連携協議会」が、平成29年6月28日、仁愛女子短期大学で開催されました。森田地区から横山芳樹公民館運営審議会委員長他4名が、本学から内山秀樹学生部長他4名が出席しました。



森田地区の出席者（公民館運営審議会委員長：横山芳樹、文化委員会委員長：佐孝寿史、森田公民館館長：柳原健一、同主事：伊藤二郎、同主事：吉田智子）



仁愛女子短期大学の出席者（学生部長：内山秀樹、事務長：吉川敏通、地域活動実践センター長：澤崎敏文、同主任：木下由香、事務：小角佳子）

協議事項は、平成28年度に実施した連携事業の報告及び平成29年度に実施予定の連携事業について行いました。

## 2 公民館と地域活動実践センターの事務打合せ

事務レベル協議が、平成30年1月31日に仁愛女子短期大学で開催されました。森田地区からは佐孝寿史文化委員会委員長、柳原健一森田公民館館長、吉田智子森田公民館主事が、本学から内山秀樹学生部長、澤崎敏文地域活動実践センター長、木下由香地域活動実践センター主任、小角佳子地域活動実践センター事務が出席しました。打合せ内容は、平成29年度の振り返りと平成30年度に実施予定の連携事業等について話し合われました。

## 3 継続事業

昨年度からの継続事業に、もりた夢駅～冬物語～（12月3日）、もりのわフェスタ（9月23日）、森田公民館・児童館における「英語であそぼ」講座（8月）等があります。



『森田公民館・児童館における「英語であそぼ」講座』

これらの他、本年度も引き続き、森田駅の夢ギャラリー森田に、学科・専攻やサークルの作品展示等を実施しました。本年度は折り紙サークルや漫画研究サー

クルによる展示を行い、学生の課外活動についても広く知っていただく機会を得ました。

〈展示月〉生活デザイン専攻(5月)、漫画研究サークル(7月)、生活情報専攻(9月)、折り紙サークル(10月)、幼児教育学科(1月)、食物栄養専攻(3月)。



また、森田地区の方への本学附属図書館の利用サービスも実施しました。本年度は、新規利用申請者9名、利用人数87名、貸出冊数155冊でした。



『図書館利用サービスの説明(九頭竜大学見学时)』

#### 4 森田地区(九頭竜大学)の本学キャンパス見学会

森田公民館では、教育事業の一環として高齢者学級の九頭竜大学を企画しています。本年度もその一環として、7月19日に九頭竜大学の本学キャンパス見学会を実施しました。今年度は、4月に完成したモニュメントの見学を行い、その説明を禿学長からいただきました。



その後、昨年度同様に、生活情報専攻澤崎ゼミの中間発表会に参加していただき、発表内容について学生と意見交換をする等、学術的な交流も深めることができました。また、図書館見学、図書館利用サービスの新規登録、学食体験、附属幼稚園の新園舎の見学等を行いました。



『授業参加、ゼミの中間発表での意見交換』

#### 5 仁短祭での模擬店出店

本学大学祭へ九頭竜大学の方が模擬店出店されました。大学・地域の祭に相互参加することで、学生との相互理解・交流が図られました。



『仁短祭での模擬店出店と学生との交流』

## 福井市との包括連携事業

## もりた夢駅～冬物語

生活科学学科 生活デザイン専攻 教授 内山 秀樹

歩いて暮らせるまちづくり実現のために、住民の方に電車や駅を身近に感じ、利用していただくための取り組みの一環として2008より始め、今年で10年目を迎えた「もりた夢駅」。昨年より福井大学学生サークル「遊房」と連携して2年目。環境デザインゼミの学生7名が「遊房」のメンバーや森田地区文化委員会と企画段階から打ち合わせを重ね、12月3日に開催しました。

昨年からの企画で、子供達に人気のGOGOTレイン。電車に乗る機会の少ない子どもたちに電車の乗り方の理解と電車への関心を高めるために、保護者同伴なしに引率大学生と電車で福井駅に行き、駅周辺でクイズラリーなどを楽しみ森田に戻ってくる企画です。

生活デザイン1回生は、5グループに分かれ、「みんなでつくる夢駅ギャラリー」、「クリスマスリースを作ろう!」森田夢駅イルミネーション、「あったかスープのラテアート」、「プラバンdeもりたん」のデザイン遊びコーナーの運営を中心に、GOGOTレインの引率にも参加しました。

子どもたちとのコミュニケーションについては楽しんでる学生が多かった反面、難しさを実感



「GOGOTレイン」出発だー!：引率チーム



こう祈るのよ：クリスマスリースづくりチーム

した者もいたようです。また、生き生きした表情で地元の方々とコミュニケーションするなど、日頃講義室ではあまり見せない一面もみられた一日でした。



## 福井市との包括連携事業

# もりのわフェスタ

生活科学学科 生活デザイン専攻 教授 内山 秀樹

9月23日、森田地区のシンボル「マイアクア」の芝生広場で開催された「もりのわフェスタ」。このイベントは、昨年までは夏の森田まつりで行われていたエコキャンドルを、他の企画も含めて気候の良い9月下旬に独立したイベントとして発展させたものです。

2回生の環境デザインゼミ生7名は実行委員会に参画し、企画段階から当日の運営と水鉄砲のコーナーを担当しました。生活デザイン1回生35名は、地域環境論の授業の一環として、エコキャンドルのデザインをグループで検討して当日に臨みました。当日10時から16時まではNPO法人「森のほうかごがっこう」の子供たちを対象としたブースのスタッフとして活躍し、16時からは自分たちが考えたエコキャンドルのデザインを試行錯誤しながら現地に落とし込んでいきました。

夕暮れ迫る18時、いよいよ点火！地元グループもふくめ、8グループのエコキャンドルが美しく暗闇に浮かび上がりました。

10時から20時までの長丁場で、身体的には大変だったけど、子どもや住民の方とのふれあいを楽しむとともに、ソーシャルマラソンマルシェなども



チラシデザイン：OG 松浦えり



木のアクセサリコーナー

楽しみながら、企画を実行する大変さや企画準備段階の重要性を学んだ一日でした。



試行錯誤のキャンドル配置



点灯完了！



「ハートフル森田」- 幻想的な世界

## 福井市との包括連携事業

ふく<sup>2</sup>ベジ・ファースト応援事業  
食育推進事業

生活科学学科 食物栄養専攻 教授 牧野 みゆき

ふく<sup>2</sup>ベジ・ファースト応援事業では、ベジ・ファースト（まず野菜から食べる）を合言葉に、食を通じた健康づくりを推進するための情報発信役として29年度新たに食物栄養専攻の学生6名が「ベジ・ガールズ」に任命されました。

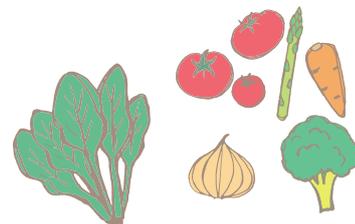


ベジ・ガールズは11月3日に行われた福井市健康フェアにおいて、ハピテラスで「ベジ・ファースト」を呼びかけました。福井市食育マスコットキャラクター「ふくいたべまるちゃん」が登場し、その際にベジ・ガールズは28年度「越前福井の美味PR事業」として食物栄養専攻の学生が考案した簡単野菜料理レシピ集を配布したり、栄養研究サークル伝統のパウンドケーキを販売し、健康フェアを盛り上げました。ほうれん草を使ったパウンドケーキが好評でした。



29年度は一般応募による簡単野菜料理レシピコンテストが実施され、優秀作品はアオッサで最終審査が行われました。県民ホールのステージでは、福井市ベジ大使の道端カレンさんのトークショーが行われました。調理室において優秀作品の調理と審査員による試食の最終審査により決定した最優秀賞の発表と表彰式ではベジ・ガールズがサポートしました。

こうしてベジ・ガールズは無事任務を果たし、卒業していきました。この体験がいつかきっと活かされることと思います。



## 福井市との包括連携事業

# 未来アトリエ — 輝く女性になるために

生活科学学科 生活情報専攻 准教授 澤崎 敏文

仁愛女子短期大学は2年前から福井市と包括連携協定を締結し、様々な事業を協力して行ってきましたが、その事業の一環として、10月18日水曜日に生活科学学科アセンブリアワー(AH)の授業にて、卒業生等によるトークイベント(パネルディスカッション)を開催しました。

1回生、2回生の生活科学学科の学生300名以上が一同に集まり、福井テレビの「日本全国 福むすび」のナレーターとしてもご活躍の岡田健志さんをMCにお迎えしてのパネルディスカッションです。パネリストは生活科学学科を卒業した各専攻の3名と、仁愛大学の卒業生の計4名です。

### ●パネリストの皆さん

戸田彩香さん (仁愛大学卒)

浅野 萌さん (生活デザイン専攻卒)

中出実花さん (生活情報専攻卒)

加藤菜苗さん (食物栄養専攻卒)



普段は専攻ごとに、自分の専門的な分野の話聞くことが多い学生たち。今回は、生活デザイン専攻、生活情報専攻、食物栄養専攻の3つの専攻の卒業生の方々の活躍をそれぞれ聞いて興味深かった、という意見も多く聞かれました。

MCの岡田さんの軽快なトークにあっという間の90分でしたが、卒業生(パネリスト)から後輩に向けた熱いメッセージを受けて、学生の皆さんは、それぞれの未来予想図を描くことができたでしょうか。

ご協力いただいた福井市役所の皆様、MCの岡田さん、そして、卒業生のみなさん、ありがとうございました!



## 福井県委託事業

福井女性ヘルスアップ事業  
～ちょい足し健幸レシピの開発・普及～

生活科学学科 食物栄養専攻 教授 牧野 みゆき

福井県健康福祉部健康増進課からの依頼で、普段の食事にもう一品追加することで、野菜は80g以上、不足しがちなカルシウムと鉄では1日に必要な量の20%をプラスできるレシピ、その名も「ちょい足し健幸レシピ」を食物栄養専攻1・2回生全員が考案しました。85品のレシピの中から書類審査で優秀賞14品を選び、さらに最優秀賞を決定するための審査会を8月30日に本学にて行いました。厳正なる審査の結果、副菜では「切干大根とサバのごま油和え」、汁物では「あざりと野菜のカレースープ」が最優秀賞に選ばれました。選ばれた14品はレシピ集となり、これを使って食生活改善推進員の方々が各地域で普及活動をされています。



2月3日に放送された福井テレビの県広報番組「ほっとふくい」では、「ちょい足し健幸レシピ」を紹介するコーナーで「小松菜とじゃこの和風炒め」を考案した学生による説明を受けながらアナウンサーが調理しました。上の写真はその撮影時の様子です。



3月3日にハピリンで開催された「女性の健康応援フェア」には、仁愛女子短期大学の「ちょい足し健幸レシピ」のブースで、カルシウムや鉄分などが不足しがちな女性のために、栄養研究サークルのメンバーに加えて福井市食生活改善推進員2名のご協力により、レシピ集の中から「小松菜とじゃこの和風炒め」と「ほうれん草と雑穀のスープ」の試食を300人分用意して、フェアに来られた方々に提供しました。各ブースのPRタイムがあり、ベジ・ガールズがレシピ作成のいきさつなどを説明しました。また、血液検査コーナーで貧血気味といわれたが何を食べたらよいか教えてほしいというような栄養相談の場にもなりました。



## 多文化プログラム（英語で遊ぼう）

# 多文化体験プログラムの開催

生活科学学科 生活情報専攻 准教授 野本 尚美

英語サークルを中心として、以下のような日程で乳幼児・小学生向け英語教室及び多文化体験プログラムを開催した。（ ）内は各回の参加者数を示す。

### ●森田地区児童館英語教室

8月7日（月）13:30-14:30 第3児童クラブ（53名）

8月10日（木）10:30-11:30 第2児童クラブ（27名）

8月17日（木）13:30-14:30 第1児童クラブ（27名）

8月18日（金）13:00-14:00 すみれ児童館（44名）

### ●福井市子育て支援センター ひよこ広場

「お姉さんと一緒にえいごであそびましょう」

8月28日（月）10:45-11:30（0～3歳児とその保護者17組）

### ●仁短祭多文化体験プログラム「えいごのゲームであそぼう！」

10月14日（土）10:00-14:00

### ●AOSSA子育て支援室「えいごであそぼう」

11月25日（土）13:00-14:00（0～6歳児とその保護者19組）

どの回においても、次の2点に重点を置いてプログラムを構成した。

- ・遊びやゲームを通して、体を動かしながら英語を使うこと
- ・友達や親、または本学学生たちとのコミュニケーションの中で英語を使うこと

### 1. 福井市子育て支援センター ひよこ広場

「お姉さんと一緒にえいごであそびましょう」

今年度初めて実施した企画で、学生6名と共に開催した。乳幼児が対象ということで、指遊びや歌を基本とした構成にした。スポンジにマジックで顔を書き、底面の中央に切り込みを入れたスポンジ指人形を学生たちと事前に作成し、それを指にはめてもらって一緒にFinger Familyを歌った。また、色と体

の動き（手をたたく、足を踏み鳴らす、手を上げるなど）を組み合わせたAction Colorsという歌を歌って、いろいろな色にタッチしてもらった。その後、いろいろな色の食べ物が出てくる絵本『A Beautiful Butterfly』（中本幹子著、アプリコット出版、2001年）を読んで終了した。言葉かけやふれあい方に多少戸惑う学生も見られたが、日ごろ乳幼児やその保護者と触れ合う機会の少ない学生たちにとっては大変貴重な機会であり、センターの先生方や保護者の方々のご協力を得て最後まで楽しく講座を実施することができた。



## 2. 仁短祭多文化体験プログラム

「えいごのゲームであそぼう！」

学生ホール1階にて英語サークル学生4名と準備を行い開催した。かごを目がけてボールを投げ、描かれている動物の名前を英語で言うという企画で、幅広い年齢の子どもが楽しめるようかごの数や位置を工夫した。来場者が多くなる昼ごろには、生活情報専攻の学生3名が動物のお面を被って学内を歩き回り、出会った子どもたちが動物の名前を言えたらお菓子をプレゼントするという企画も実施した。乳幼児から小学生まで、様々な年齢の子どもに参加していただき、学生と子どもたちが楽しく英語を用いたコミュニケーションを行うことができた。森田地区児童館での英語教室に参加してくれた小学生が「夏休みに児童館で習ったから覚えている」と、難しい英単語をスラスラと答えてくれたときには、学生たちも思わず感嘆の声をあげていた。保護者の方々からも英語講座について多様なご意見を頂戴し、地域の多くの方々に支えられていることを実感した。



## 3. AOSSA子育て支援室「えいごであそぼう」

今年度初めて実施した企画で、対象年齢が0～6歳と幅広かったため、体の動かし方や手作業のバリエーションを豊富にすることで参加者全員が楽しめるよう工夫した。前半はHead Shoulders Knees & Toes、London Bridge、Make A Circleといった体の動きを伴う歌を一緒に歌った。子どもたちはすぐに歌や動きを覚え、保護者の方と一緒に上手に体を動かしながら楽しんでいる様子が見られた。後半は冬の遊び（スキー、スケート、そりなど）についての英語を学び、色鉛筆を使って簡単なぬりえをしてもらったあと、その厚紙をペットボトルに貼り、風船を膨らませて羽子板に見立てて遊んだ。風船を膨らませる際には子育て支援室のスタッフの方々にもご協力いただき、一人ひとりの子どもたちに好きな色を英語で言ってもらった。最後は『Brown Bear, Brown Bear, What Do You See?』（Bill Martin・Eric Carle著、Henry Holt Books for Young Readers、1996年）を読み、色や動物の名前、また英語のリズムにも親んでもらった。講座終了後には保護者の方から「歌や踊りが楽しかった」「子どもがWhat do you see?と言っていて驚いた」などのご感想をいただいた。



学生たちも私自身も、子どもたちの自由な発想力や習得の早さに毎回驚かされ、多くの学びを得ることができた。来年度も充実した講座が開催できるよう、学生と共に準備を進めたい。

## 図書館企画展示の活動報告

仁愛女子短期大学附属図書館 竹下 真弓

図書館では「図書コミュニケーション」をキャッチフレーズに知的好奇心を提供する場として、月1回のペースで企画展示を行っています。閲覧は可能ですので、是非ご来館ください。また、本学卒業生と森田地区住民の方には貸し出しを行っています。詳細は附属図書館ホームページ(<http://www.jin-ai.ac.jp/lib/>)をご覧ください。

### ●2017年4月「この木なんのきねがいの木」

「大きな木を図書館に描いてその周りにメッセージが書けるようにしたい」という図書館サポーターの持ち込み企画から生まれました。学生の願いを恒間見ることができます。



### ●2017年7月「わが家のペット自慢」

学生・教職員のペットの可愛い写真、おもしろ写真など自慢のベストショットを紹介しました。



### ●2017年7月「人間と文学」作品展示

「人間と文学」の授業で学んだ山川登美子の短歌を、生活デザイン専攻の2回生がそれぞれの解釈で表現し、描いた作品28点を展示しました。



### ●2017年6月「衣生活論」作品展示

「衣生活論」の授業で制作されたファッション画の作品（生活デザイン専攻26名、生活情報専攻81名）を展示しました。

TPOにあわせたコーディネートや、ヘア&メイクが素敵で、図書館がとっても華やかな空間になりました。



### ●2017年9月「創作絵本展」

本学の生活デザイン専攻2回生が「デッサンII」の授業で創作した38作品を展示しました。絵もストーリーも世界に一つしかないオリジナル作品です。



●2017年10月「図書館サポーター選書本」

図書館サポーター23名が書店で選書した図書など170点をおすすめのコメントを添えて展示しました。毎年、バラエティ豊かな選書で、学生の人気を集めています。



●2017年11月「ふるさと風花文庫」

県立図書館「ふくい風花随筆文学賞」実行委員会様より、若い世代が読書や文芸創作への興味・関心が高まることを目的として「ふるさと風花文庫」全110冊を11月～3月まで貸し出していただきました。福井ゆかりの作家や、福井を描いた作品も多数あり、期間中123冊の貸し出しがありました。



●2017年12月「第5回青空文庫表紙コンテスト」

Webサイト「青空文庫」には著作権の切れた古い文学作品が掲載されています。その中から3作品（今年は、『山椒大夫』・『飴だま』・『ルンペルシュチルツェン』）を図書館が選び、作品の持つ魅力を一層際立たせる様な「表紙デザインコンテスト」を行いました。優秀賞受賞者には、副賞として図書カードと作品を表紙にした文庫本を贈呈しています。



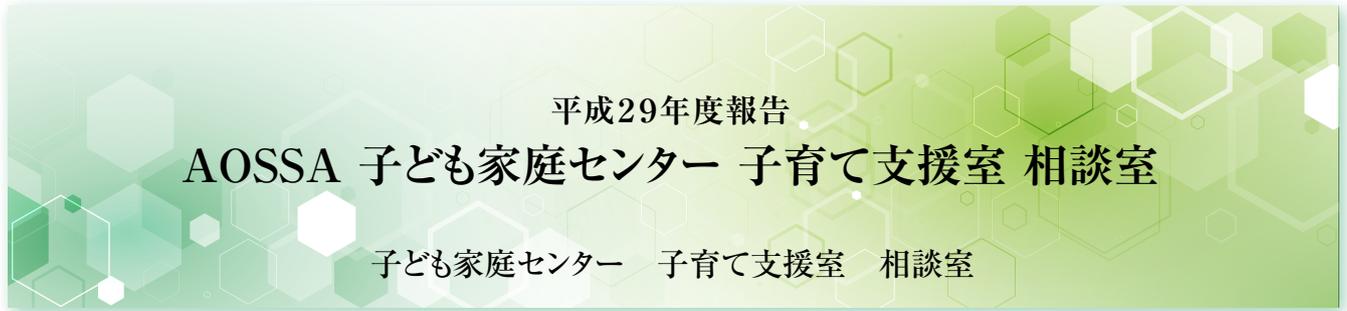
※今年度優秀賞受賞作品

●2018年1月「小倉百人一首大会」

この大会は、百人一首を通じ親交を深めることを目的に開催しました。授業の空き時間や、お昼休みなどに62名の参加者が百人一首の魅力に触れていました。



今後も、図書館が様々な人との交流や出会いの場になるよう、楽しく魅力的な企画を開催していきたいと考えています。



当センターは、今年度、開設10年を迎えました。今後もさらに福井市と連携しながら、学園ならではの特色ある事業展開を努めていきたいと思えます。

**【子育て支援室】**

子育て支援室では、以下の①～⑦の基本業務を中心に、地域の子育て親子に支援を実施しました。

- ①子育て親子の交流の場の提供と交流の促進を行う。
- ②育児不安等の相談支援を行う。
- ③子育てを通して、親も成長してもらう親育ちのための支援を行う。
- ④子育てサークル等の形成に対して支援を行う。
- ⑤子育て講座等を開催する。
- ⑥高齢者や地域学生等の地域の多様な世代との連携を継続的に実施する取り組みを行う。
- ⑦市が実施する子育て支援事業及びその他の子育て支援サービスに関する情報提供等を行う。

具体的な方法として、③子育て不安等に対する親支援グループワーク事業、「ほっとるーむ はぐはぐ」を月1回定期的に実施しました。④子育てサークル支援事業では、転勤家庭を対象としたママ友づくり支援「はっぴいずmama」を行いました。

そのほか、地域支援・連携活動として、出張子育てひろばの開催、子の育ち・親の育ちを支援する地域子育て支援委員会への参加、地域の伝統行事への参加、子育て親子と高齢者や若者(学生)などが集えるイベントを開催しました。

当センターの子育て支援ボランティアた・ま・ごの会を活用したり、子育て支援関連団体と協力した取り組みを積極的に展開しました。

子育てに関する情報提供では、情報を収集するだけでなく、利用者が選択したり、閲覧しやすいようにカテゴリー分けをするなど工夫をしました。また、ホームページやSNSを活用したイベント発信も随時行いました。

**【相談室】**

相談室では、次の①～⑤を基本業務として実施するとともに、要保護児童対策地域協議会における対象児童について、各関係機関と連携して支援を行いました。さらに、養育者の養育態度に不適切さが認められる家庭や、育児不安や心の不調など養育者自身の心身の状況が心配な家庭などを家庭支援ケースとして捉え、当センターが中心となり、面接相談や家庭訪問、保育園や学校等との連携を行うなど、包括的な支援が行えるよう取り組みました。

- ①子ども相談：子ども(0～18歳)に関する気がかりなことについて相談及び問題解決に必要な包括的支援を行う。
- ②女性相談：様々な悩みを持つ女性からの相談及び適切な支援を行う。
- ③子育てママダイヤル：子ども(乳幼児期)の子育てに関する相談を受け付け、適切な支援を行う。
- ④専門相談：小児科医師、弁護士による専門相談を、それぞれ月1回開催する。
- ⑤福井市要保護児童対策地域協議会：児童虐待を防止するための担当者会議及びケース検討会へ参加する。

そのほか、子ども(0～18歳)に関する気がかりなことについて相談及び問題解決に必要な包括的支援を行う方法として、土曜日に会議室を活用し生活課題を持つ子どもの居場所づくり「土曜教室」表1を実施しました。

《子育て支援室利用実績》

	実利用世帯数	子ども実利用者数	子どものべ利用者数	総のべ利用者数
平成29年度	1,581 世帯	2,070 人	9,305 人	17,801 人

表1. 土曜教室の実施

実施回数	保護者のべ人数	子どものべ人数	子ども実人数
41 回	10 人	107 人	6 人

《相談室利用実績》

単位(件)

	子ども相談	女性相談	子育て ママダイヤル	小 計	専門 相談計	(内訳)		総合計
						小児科	弁護士	
平成29年度	1,348	957	209	2,514	96	72	24	2,610

【学園連携】

学園の特色を活かした事業として、仁愛女子短期大学 生および仁愛女子高等学校生徒の体験学習の受け入れ、福井市ボランティアアカデミー子育て支援コースへの仁愛女子短期大学教員の派遣、さらに今年度は、仁愛女子短期大学地域活動実践センターと協働して仁愛女子短期大学教員等による子育て公開講座(表2.)を開催しました。

表2. 仁愛女子短期大学 地域活動実践センター  
公開講座「子育て講座」開催実績 (会場 AOSSA)

日程 (平成29年)	タイトル	親	子	組
5月28日(日)	「えいごであそぼう」 講師/ステイプン・アンドリュース氏	52	47	36
8月9日(水)	「ベビーヨガ」 講師/飛石 めぐみ 氏	34	33	33
11月5日(日)	「おもちゃで育む親子のふれあい」 講師/香月 拓 先生	30	39	30
11月25日(土)	「えいごであそぼう」 講師/野本尚美 先生	22	29	22
11月30日(木)	「親子のための虹色コンサート」 講師/木下由香 先生	28	28	27
12月6日(水)	「おばあちゃま劇場とお楽しみ会」 講師/グランマ・愛(コーラスグループ)	63	65	63



【児童虐待防止普及啓発に関する事業】

今年度は、「子どもの笑顔を守ろう」をコンセプトに、福井市と協働して年間を通した啓発活動(表3.)を行いました。市民目線でわかりやすく児童虐待防止について周知するため、子育て支援団体や企業等と協力して取り組みました。ボランティアとして、仁愛女子短期大学学生や仁愛女子高等学校生徒をはじめ、地域の大学生や高校生の参加を得るこ

ともできました。さらに、仁愛幼稚園をはじめ地域の幼稚園に絵画展への制作協力をいただくなど、平成29年11月5日のオレンジリボン運動(児童虐待防止啓発運動)「こども笑店」では、500名を超える来場者を迎えることができました。こうした、企業や学生、地域や市民団体、そしてボランティアが一致団結し、児童虐待防止および未然防止のためのオレンジリボン運動を今後も展開していきたいと考えています。その他、保育園や認定こども園等への児童虐待防止出張講座における講師派遣を実施しました。

表3. オレンジリボン運動(児童虐待防止啓発運動)の活動実績

項目	日程 (平成29年)	会場
街頭啓発①	7月22日(土) 11:00~12:00	ショッピングセンター パリオCITY
街頭啓発②	7月22日(土) 14:00~15:00	ショッピングシティベル
街頭啓発③	8月20日(日) 13:00~14:30	ラブリーパートナーエルパ
街頭啓発④	9月10日(日) 10:00~16:00	福井駅前 電車通り
街頭啓発⑤	10月29日(日) 11:00~14:00	AOSSA1階 アトリウム
街頭啓発⑥	11月1日(水) 7:30~8:30	福井駅 西口ひろば
こども笑店	11月5日(日) 10:00~15:00	AOSSA1階 アトリウム6階全会議室
巡回絵画展①	11月15日(水)~ 28日(火)	西武福井店8階 レストラン街
巡回絵画展②	11月6日(月)~ 30日(木)	福井市役所 市民ホール 北側エリア
巡回絵画展③	12月6日(水)~ 27日(水)	福井市総合 ボランティアセンター



## 学生の社会的活動報告

### もりたびと 『森田人』

～住民参加によるコミュニティラベルガイドブック～

生活科学学科 生活デザイン専攻 2回生 佐藤 茉優 長谷川 泰可

私たちは卒業制作として、コミュニティラベルガイドブック『森田人』を制作しました。このガイドブックは、笥裕介さんら (issue+design) が始めた人と人をつなぐガイドブックで、地域活性化のツールの1つです。昨年の卒業生が『森田人』に取り組みましたが、今回は森田住民の方にも参加して



「森田人」表紙

いただくこと、質量ともに充実させて本として出版することで、地域活性化につなげたいという想いで取り組みました。

制作手順としては、まず、地元住民の方に集まってもらい、『森田人』候補者の発掘、絞り込みのワークショップ(延べ45人参加)を行いました。そして、地元住民6人を交えた編集チームを結成し、取材・撮影もお願いしました。その取材シートをもとに記事を作成し、紙面デザイン、編集、校正を行い、B6版88ページの冊子を作り上げました。

卒業制作展期間中には『森田人』発行記念イベントを行いました。イベント内容は、『森田人』の掲載者や編集チームの方など携わっていただいた方々によるパネルディスカッションで、『森田人』の意義と今後の活用方策、展開の可能性について意見を交わしました。

この作品は2人だけの力では出来上がらなかった作品なので、協力してくださった方に感謝の気持ちでいっぱいですが、この作品が森田の活性化に繋がることを願っています。



### 坂井市まちづくり協議会の オリジナルキャラクター制作

生活科学学科 生活デザイン専攻 2回生 廣部 聖子

坂井市の事業で市内13のまちづくり協議会(まち協)のオリジナルキャラクター制作に取り組みました。生活デザイン専攻の2回生7人がリーダーとして、各地区の特徴を伺い、どのようなデザインにするのか会議を重ねました。その会議から生活デザイン専攻全体でキャラクターのラフスケッチを提案しました。その50以上の中からの、リーダーと各地域の方で案を絞り、さらに要望を加えたキャラクターを完成させました。初回のキックオフ会議から約半年間の長い活動だったので、キャラクターが出来上がったときの達成感はとても大きかったです。

最後の完成発表会では、坂井市役所の担当職員の方や、今までお世話になった各まち協の方から「ありがとう」「積極的に使っていく」など嬉しいお言葉を頂きました。大変なことも多かったけれど、この活動を頑張って良かったと思えました。またこの活動を通して、自分が知らない地域とたくさんの人に関わり、普段の短大生活では経験できない交流をすることができました。私は7人のリーダーの内の一人として、他の学生のデザインを取りまとめ、良い部分を活かして、先方の意向を取り入れながら仕上げることができました。自分たちが制作したキャラクターが、今後地域を盛り上げる活動にどんどん使われていってほしいと思えました。

今回大変お世話になった、坂井市役所の職員の方、各まち協の皆さん、西畑先生、専攻の学生の皆さん本当にありがとうございました。



## じんあいこどものくに

幼児教育学科

日時:平成29年10月14(土) 9:30~16:00

会場:仁愛女子短期大学 E館・C館

幼児教育学科では、毎年大学祭において子ども向けのアトラクションを集めた「じんあいこどものくに」と題する企画を催しています。この企画は、学生が主体となって子どもたちが楽しめる遊び場を企画・準備・実践する学びの機会として位置づけられています。ここでは、今年度の取り組みについて報告します。

実施に当たっては、まず4月に行なわれた各クラスのミーティングアワーにおいて、企画案を出したり、実行委員を決めることから始めました。そして、4月、5月、7月に合計3回の実行委員会を開催しました。第1回の会議では、各クラスの実行委員からクラス代表を決めるとともに、委員長を2回生から1名、副委員長を2回生から1名、1回生から1名選出しました。また、役割分担の決定、企画内容案や場所の調整を行いました。第2回の会議では、引き続き企画内容の調整を行ないました。第3回の会議では、場所の調整を行ない、昨年同様のE館だけでは場所が不足するとして、C館の1教室を追加で使用することにしました。

準備は、大学祭前日午後からクラスごとに行いました。こ



れは、各教室の場をもとに、様々な材料を元に試行錯誤せざるをえず、同時に屋台やサークル等他企画と関わる学生もいて、例年かなり時間がかかります。そのような中、スタンプラリーの担当グループは、前日準備だけでは間に合わないとして、事前に余裕をもって準備を行なっていました。

大学祭当日は、多くの親子連れに来場いただき盛況でした。来場者数は、子ども219名、大人135名とほぼ例年通りでした。幼児教育学科の学生は、将来保育士を目指すだけあって、子どもに笑顔で丁寧に接している姿が印象的でした。

全体を統括する実行委員会に関わった立場から、いくつか感想を述べたいと思います。上述しましたように、クラスごとの企画における学生と子どもたちのかかわりは見ていても気持ちの良い物でした。また、実行委員はそれぞれの役割を責任をもって果たしていたと思います。ただ、役割分担は果たしていたものの、実行委員会全体の役割ごと、クラスごとの連携をもった柔軟な協働への意識は希薄であったのではないかと思います。片付けた後、反省会を設けたほうが良かったかもしれません。また、他の教員からは、受付を建物内に設けたほうがわかりやすかったのではないか、C館は場所がわかりにくかったのではないかと、今回は迷路のようなものが多く保護者の負担が大きかったのではないかなどの意見が聞かれました。

学生にとっては、企画・準備・実践する学びの機会として、大変有意義な企画であると考えます。次年度は今回の反省を元にさらに充実した「じんあいこどものくに」が実施されることを願います。

(文責:重村幹夫)

## ネパールでの活動を通してできた目標

生活科学学科 生活情報専攻 1回生 小川 日子

私たち生活情報専攻の5名は9日間日本を離れ、ネパールでボランティア活動をした。私たちの役割はネパールに支援物資を届けること、先輩方が集めた義援金を渡すこと、ネパール山岳地帯にあるラムチェ村で小学生に日本語や日本の文化を教えることだ。メンバーは澤崎先生と2回生の先輩2人、1回生の私を含めた3人と京都でデザインについて学んでいる田中さんの7人だった。

私たち1回生が特に力を入れたのはラムチェ村での授業だった。先生から、ネパールへボランティアに行き、そこで日本について授業をすると聞いてから私たちはずっと授業内容について考えていた。先生からいただいたネパールの学校事情についての資料には、「ネパールでは詰め込み授業で美術や音楽、体育などはほとんど無い」と書かれていた。このことから私たちは、ただ一方的に情報を伝えるだけではなく子供たち参加型の授業にしようと考えた。たくさん案が出たが、最終的に決まったのは五十音表を使ってひらがなを教えることと、日本の文化を体験してもらうこととして書道をするというものだった。書道は私の特技でもあるため、積極的に意見を出すことができた。授業の流れや必要なものなどネパールに行くまでにたくさんの準備をした。

私たちは、1日かけてネパールでお世話になる銀杏旅館に着いた。銀杏旅館に着くまでにたくさんの初めての体験があった。そもそも海外に行くことが初めてだった。初めての羽田空港、初めての海外、初めて8時間以上も飛行機に乗って英語で話しかけられたり、初めて車が4、5台並んで走っていたりするのを見たりした。たくさんの初めてのことが一度にやってきて頭の中が混乱するのではないかと思ったが、意外にも冷静に対応できた。

銀杏旅館では日本人で支援活動を行っている筋田さん、ネパール人のミナさんをはじめ、たくさんの人たちにお世話になった。ミナ



さんの弟のパンネさんにはネパールにいる間ずっと車の運転をしてもらいお世話になった。ネパールの交通事情と日本の交通事情は全く違い、ネパールでは信号はほとんど見なかったし、車線はあつてないようなものだった。道は都心から離れるほど整備されていない状況だった。発展途上国ではよくある光景らしい。それを実際に体感できてとても嬉しかった。

ラムチェ村に着くとたくさんの子供たちが迎えてくれた。子供たちはみんなかわいくていつも笑顔で、言葉が通じなくても一緒にいるだけでとても楽しかった。周りの山を見渡せる大きな岩の上でみんなが集まって歌を歌ったことは一生忘れられない。ラムチェ村に到着した次の日、小学校で授業をした。たくさん準備をして、前日も銀杏旅館でミナさんや先輩たちと話し合っただけで授業は決して完璧とは言えない出来だった。人に何かを教えたり、伝えたりするのがどれだけ難しいことか痛感できた。村で子供たちと遊ぶ時にはそれほど必要性を感じなかった言葉が授業をしたことによって、とても大切なものだということができた。

ラムチェ村から銀杏旅館に帰ってきた夜、翌日ネパール全土でストライキ（市街地の店舗と交通機関が全て閉鎖）が起きることを知らされた。日本で、しかも私の暮らしている福井ではストライキが起こったところなど見たことがなかったため、知らされたときはとても怖かった。しかし、これも海外に来たからこそ体験できるものだとみんなで話して、貴重な体験のひとつだと感じた。ストライキはそこまで大規模にならず、お昼からは首都カトマンズで多くの世界遺産を見ることができた。仏教、ヒンズー教のお寺を見学したが、世界遺産のお寺では、宗教の枠を超えた日本では体験できないようなたくさんのお寺を体験し、様々な考えを学ぶことができた。

ネパールでは楽しいことがたくさんあったが、行く所々で2015年に起きた地震の被害が垣間見えた。観光をしている時も、地震で崩れたため見ることができない場所や、車に乗っている時も壊れたダムが見えたりした。ラムチェ村に向かっている時に立ち寄った渓谷には集落があったのに地震で崖が崩れ、全部岩の下敷きになってしまったという場所だった。150人以上が亡くなってまだ見つかっていない人も大勢いると聞いた時はどうしたらよいかわからなかった。





実際に現地に来てみないとわからないことがたくさんあり、自分たちがどれだけ無知で無力か思い知らされた。そしてまだまだネパールには支援が必要だということを知った。ネパールだけではなく、他にも支援が必要な国はたくさんあるだろう。こんな数日間ネパールに行っただけの10代のただの学生に何ができるのだろうと最初は思った。しかし、私の周りの小さなところからでも私が実際にネパールで見たこと、感じたことを伝えることはできると考えた。早速家族に伝えた。友達にも伝えた。もっと伝えたい。そう考えたら止まらなくなった。あと1年しかない学生生活の中でできることは何かと考えた結果、ゼミ活動でネパールの義援金を集めることだった。今後、ミナさんが地元で経営している工場で作られている雑貨やネパールならではのものを日本で売って売上げを義援金にしようと考えている。ミナさんの工場は地震で家族を亡くした女性を雇用して、その人たちに居場所と仕事の機会を与えているそうだ。このようなことも、それを支援する活動をしている人がいることも少しでも多くの人に知ってもらいたい。今回のボランティア活動を通して、楽しい思い出と新しい目標を作り出すことができた。



## 栄養研究サークル

生活科学学科 食物栄養専攻 2年生 大友 春奈

大学連携センターFスクエア1st Anniversary (4月15日)、みどりと花の県民運動大会 (6月4日)、食育フェスティバル (10月22日) にて栄養研究サークル伝統のパウンドケーキの販売を行いました。また、昨年に引き続き、福井市のベジガールズとして、福井市健康フェアで野菜を使ったレシピ集を配布するなどして、野菜から食べる『ベジファースト運動』の推進に取り組みしました。

たくさんのパウンドケーキを焼くことは大変でしたが、私たちが作ったものを多くの方に買っていただき、美味しいと笑顔になってもらえることがやりがいとなり、頑張ることができました。はじめのうちは時間がかかっていたパウンドケーキ作りも、繰り返し行ううちに効率よく短時間で上げることが出来るようになりました。

パウンドケーキの販売やレシピ集の配布を通して、多くの方と関わり、人との接し方や、人へ物事を伝えることの楽しさ、また伝えることができた時の喜びを知りました。将来、栄養士になる上で、栄養指導を行うなど、人と関わることは必ず必要となります。どのように人と接したら良いか、どのように伝えると相手は理解しやすいかなど、サークル活動で学んだことを、栄養士として働く中でも実践していきたいと思っています。



## 子育て応援団「すこやかふくい2017」

幼児教育学科 1回生 石川 ゆいか

私は、産業会館で行われた「すこやかふくい2017」のボランティアとして、会場全体の放送をしました。主な活動内容は、ステージ活動の案内やアンケートへの参加の呼びかけ、車の移動のお願いなどでした。

この活動を通して学んだことは、単に原稿を読むだけでなく、お客様に伝えたい、聞いてほしいという想いを込めて読むことが大切であるということです。私は、このような活動を体験することが初めてだったので、「間違えたらどうしよう」「囁んでしまったらどうしよう」ととても緊張していました。しかし、放送担当のスタッフの方に「普段、お友達に大切なことを話す時のように、特に伝えたい言葉、例えば場所や時間などをお客様が聞き取りやすいようにゆっくりはっきり話せばいいんだよ」とアドバイスを頂き、何度も繰り返すことで、リラックスして取り組むことができました。

私の放送は、福井のなまりが強かったけれど聞き取りやすくとても良かった、と褒めて頂いたので、将来、保育者となり子どもたちや保護者の前で話しをする際にこの経験を活かしていきたいです。貴重な体験をさせて頂き、ありがとうございました。



## ハーモニーホールふくい ふるさと子どもコンサート すてきなおねえさんの楽しい童謡とわらべうた ～手遊びとともに～

日時 平成30年1月30日(火) 午前11時 開演  
場所 福井県立音楽堂ハーモニーホールふくい大ホール  
演奏 仁愛女子短期大学幼児教育学科  
音楽表現選択1回生(28名)  
参加者 福井市・坂井市・鯖江市・越前市・大野市・勝山市から、22園・5個人(乳幼児とその保護者の方)・658名が参加。(当初予定は28園・5個人・757名であったがインフルエンザや雪の影響により減少した)



### ● 幼児教育学科1回生 秦 彩音

私はわらべうたコーナーの司会を担当しました。一つのわらべうたを使って様々な動物を登場させました。大きな舞台上で司会をすることはないのでとても緊張しましたが、子どもたちも楽しそうに真似をして遊んでくれたので嬉しかったです。また「おもちゃのチャチャチャ」など子ども向けの歌も発表しました。自分たちで考えた振付けは練習時間があまりなかったので少々不安でしたが、舞台上に立った皆と団結して楽しく発表することが出来たので良かったです！演奏後の楽器体験コーナーでは子どもたちの可愛い反応にとっても勉強になりました。



## 学生ボランティア活動報告

### 英語サークル

生活科学学科 生活情報専攻 2回生 笹木 瑞希

#### 森田地区児童館における英語教室

私たちは2017年8月7・10・17・18日に福井市森田地区の4つの児童館で、小学生を対象とした英語教室を開催しました。これから英語を学んでいく小学生が英語に苦手意識を持たずに楽しく学習するための工夫について考えるいい機会となりました。

内容は、先生と何度も話し合い、英語の動物の歌・かるた・フルーツバスケットを実施し、最後に英語の絵本の読み聞かせすることに決めました。かるたとフルーツバスケットは最初に歌った歌に出てきた動物を使い、まず歌を歌うことで単語を学習し、かるたで英語を聞き取る力をつけ、フルーツバスケットで学習した英語を話す・聞くことができるようなプログラムにしました。

英語教室当日は、小学生の子どもたちが元気に歌を歌い、楽しそうにゲームに参加していました。最後の絵本の読み聞かせでも、前のめりになりながら聞いてくれて、もう一回読むようお願いされました。また、かるたは私たちが帰った後も楽しんでもらえるように、各児童館に2セットずつプレゼントしました。

英語教室の内容を決めるときは、英語を習っている子どもも習っていない子どももみんなが飽きずに楽しく英語と触れ合ってもらおうことや、ゲームで使う安全で丈夫な道具作りの工夫について考えることがとても難しかったです。しかし、英語教室をしている間は子どもたちが積極的に英語を話そうとする姿が見られましたし、英語教室後には開催した児童館の方から「教室後もかるたを使って遊んでいます」と報告をいただき、とてもうれしかったです。今回の英語教室で少しでも英語に興味を持ってきていたらうれしいですし、私にとってもとても良い経験となりました。



### パソコンボランティアサークル

仁短パソコンボランティアサークル(以下、パソボラ)は、鯖江市社会福祉協議会鳥羽事業所「なかま」にて、2ヶ月に1回程度のペースで「障がい者のためのパソコン相談会」を主催する等の活動をしています。

#### ●サークル長:山本清華(生活科学学科 生活情報専攻 2回生)

私は、パソボラ活動の中で3つのことを学びました。1つ目は、他人にものを教えることの大変さです。相手に分かりやすいように、きちんと伝わるように言葉を選んで教えることはとても難しかったです。2つ目は、検定や資格などを取得していても、自分は浅い知識しか持っていないと気づいたことです。私は、授業を通して、ExcelやWordなどのソフトはそれなりに使えるようになったと思っていました。しかし、サークル活動の中で障がい者の方と一緒にソフトの使い方について考えていた時に、自分があまり理解していなかった機能や、うろ覚えだった部分を見つけて、自分の持っている知識やスキルがまだまだ十分でないことに気づきました。3つ目は、障がい者の方への接し方です。普段高齢の方と関わることもなく、どのように接すればいいのかよく分かっていなかったのですが、その人に合わせた声量・動きの早さなどがあり、静かに相手に耳を傾けることが必要だということを学ぶことができました。

#### ●会計担当:山田結花(生活科学学科 生活情報専攻 2回生)

障がい者の方へのパソコン支援を通じて学んだことは、言葉だけで的確なものごとを教えることです。私は目が不自由な方のサポートをしていました。曖昧な指示では教えたい内容が伝わらないため、どこをどう操作するかを的確に伝える必要がありました。また、操作を間違えてしまった際にも、今どうなっているのか、どうして間違えたのか、どうすれば直せるのかをわかりやすく教えることが重要になってきます。これらのことを念頭に置きながら支援を行うことで、「新しいことを覚えられてよかった。ありがとう。」と言われることができました。そして、パソコンに関係のあることでもないことでも積極的に話し、コミュニケーションをたくさんとることで、話しやすい雰囲気づくりを心掛けました。この経験から、相手に何かを伝えたり、教えたりする際には、話しやすい場の雰囲気づくりと、的確な指示を大事にしていこうと思いました。

## 写真サークル

生活科学学科 生活情報専攻 2回生 青池 亜依

29年度の写真サークルでは様々な活動を行いました。まず、6月に福井市総合ボランティアセンター主催のボランティアアカデミー「写真(国体)コース」に参加してきました。平成30年度にはいよいよ福井で国体が開催されますが、福井市ではこのような情報記録に関するボランティアも募集しているということで、記録の仕方を現役の新聞記者・カメラマンの方から学ぶという講座です。

通常、写真やカメラの講座というと、技術的な部分や芸術的な部分に目が行きがちですが、情報をしっかりと記録して伝えることに主眼を置いた写真の撮り方、新聞記事等で必要な写真の撮り方のノウハウ等を学ぶことができました。伝わる写真にするためには、いつ、どこで、誰が、どのように、といった要素も重要で、事前の準備なども必要です。インターネットやSNSなどでも写真が重要になってきている今、改めて写真の撮り方の重要性を感じました。

次に、10月の大学祭、1月にはJR福井駅前で開催しました。特に、駅前のふくいまちなかサポートセンター「ふく+」では、1月13日から21日までの9日間、多くの方々にお越し頂きました。皆様のご理解・ご協力ありがとうございました。(文責:顧問 澤崎敏文)



## 折り紙サークル

幼児教育学科 2回生 サークル長 岩本 栞奈

私たちはがんの子どもたちのために、少しでも四季を身近に感じてもらえるように壁面を毎月作っています。外に出る機会が少ない子どもたちの心の支えになってほしいと思いつながり活動しています。折り紙サークルの特徴として、壁面に折り紙をいれることにしています。誰でも真似できるような、簡単な折り紙です。時にはデカルコマニーなどもやってみたりしています。折り紙サークルは、昼休みに集まって活動しています。お昼ご飯を一緒に食べながら、実習の話や就職の話、いろんなクラスが集まっているからこそ、いろんな悩みを共有することができる楽しい時間です。



また、壁面づくり以外にボランティアにも参加しています。子どもやお年寄りに折り紙を教えたりもしています。時には、教える立場から教わる立場になることもあるんですよ。お互いが学び、教え、高まり合っています。サークルで築いた絆は、就職してからも繋がっていくと思います。折り紙サークルの経験は、社会に出てからも役立つとても素敵なものです。折り紙の知識だけでなく、人としても成長できる素敵なサークルだと思います。



## ボランティアサークル

幼児教育学科 2回生 仲谷 悠里

①ボランティアサークルでは、坂井市三国図書館で、絵本を読んだり、遊びを提供するなどの活動を行いました。遊びでは、季節の行事(七夕、ひな祭りなど)に合わせた折り紙や製作を行いました。未就学園児だけではなく、小学生や保護者の方々も楽しむことができるよう、絵本を読んでその絵本に関するクイズを出したり、絵本に出てきた動物の真似をしたりと、部員一人ひとりが工夫しながら活動を行いました。

②図書館でのボランティア活動を通して、自分が思っていたより絵本に興味を持つ子どもが多いということに気がきました。保護者の方々も一緒になって真剣に絵本を読んでくださり、「楽しかったね」と親子で言葉を交わす姿も見られ、充実した活動になったと感じています。

③今までの活動の中で私が一番心に残った活動は、七夕の日に笹の飾りつけを楽しんでもらうという活動です。私自身、今まで図書館では読み聞かせしか行ったことがなかったので、学生のみで一から企画できるのかと不安な部分もありました。実習で体験した幼稚園や保育所での設定保育では、自分が担当する年齢が決まっているので、年齢に合わせて活動を考えるのですが、図書館での活動は年齢の幅が広いので、どのような年齢でも楽しめるよう考えるのはとても大変でした。しかし、当日は、親子で一緒に飾りづくりを楽しんでいる様子や、一生懸命に飾りつけをしてとてうれしそうに自分の笹を眺めている子どもの姿があり、子どもたちの笑顔をたくさん見ることができたと思います。



## 平成29年度 地域活動実践センター活動報告

### ● 管理栄養士国家試験対策リカレント講座

	開講日	教 科	講 師 (敬称略)	参加人数
第1回	9月21日(木)	食べ物と健康-1(調理)	谷 洋子	8
第2回	9月28日(木)	栄養教育論	牧野みゆき	8
第3回	10月5日(木)	生化学	谷 政八	5
第4回	10月11日(水)	基礎栄養学	岩田 章子	7
第5回	10月19日(木)	応用栄養学	牧野みゆき	5
第6回	10月26日(木)	食べ物と健康-2(食品)	小林 恭一	6
第7回	10月28日(土)	◇第1回 模擬試験	牧野みゆき	3
第8回	11月9日(木)	社会・環境と健康-1	出口 洋二	7
第9回	11月16日(木)	食べ物と健康-3(食品衛生)	小林 恭一	8
第10回	11月30日(木)	社会・環境と健康-2	出口 洋二	3
第11回	12月6日(水)	給食経営管理論	嵐川眞智子	8
第12回	12月21日(木)	人体の機能と栄養(解剖生理学)	齋藤 正一	6
第13回	1月18日(木)	人体の構造と疾患(病理)	齋藤 正一	7
第14回	2月1日(木)	臨床栄養学(診断)	齋藤 正一	2
第15回	2月10日(土)	◇第2回 模擬試験	牧野みゆき	6

## 平成29年度 公開講座開催一覧

### 【生活とデザインセミナー】

テ ー マ	好きなこと、働くこと。
講 師	TSUGI代表 新山直広 氏、上出長右衛門窯 上出恵悟 氏、 福井大学 特命講師 浅野桃子 氏
開催日時	平成30年2月24日(土) 14:00～
会 場	本学 421教室
参加人数	130人

## 【 Microsoft Excel講座 】

基礎講座	内 容	Excel2013の基本的な操作方法を学習し、表やグラフなどを作成
	開催日時	平成29年9月3日(日) 9:00～15:00
	講 師	本学 生活科学学科 生活情報専攻 准教授 平塚絢一郎
	会 場	仁愛女子短期大学 C108教室
	参加人数	15人
応用講座	内 容	Excel2013の応用的な操作方法を学習し、実用的な表やグラフなどの作成方法を学ぶ
	開催日時	平成29年9月10日(日) 9:00～15:00
	講 師	本学 生活科学学科 生活情報専攻 准教授 平塚絢一郎
	会 場	仁愛女子短期大学 C108教室
	参加人数	11人

## 【 食育講座 】

第1回	テーマ・内容	『日本料理 ～美味しいダシをとって、日本食を楽しもう～』 新生姜の炊き込みご飯、スベアリの梅干し甘辛煮、夏のなます、吉野鶏のお吸い物
	開催日時	平成29年6月10日(土) 10:00～13:00
	講 師	本学 生活科学学科 食物栄養専攻 講師 森 恵見
	会 場	仁愛女子短期大学 調理実習室
	参加人数	12人
第2回	テーマ・内容	『中華料理 ～夏の野菜 茄子で中華料理～』 麻婆茄子、蒸し茄子と糸寒天のサラダ、茄子蛋花湯、牛奶豆腐
	開催日時	平成29年7月15日(土) 10:00～13:00
	講 師	本学 生活科学学科 食物栄養専攻 講師 森 恵見
	会 場	仁愛女子短期大学 調理実習室
	参加人数	9人
第3回	テーマ・内容	『西洋料理 ～西洋料理を可愛くおいしく食べよう～』 鶏のパプリカ煮、シーザーサラダ、アイスボックスクッキー
	開催日時	平成29年9月5日(火) 10:00～13:00
	講 師	本学 生活科学学科 食物栄養専攻 講師 森 恵見
	会 場	仁愛女子短期大学 調理実習室
	参加人数	8人

## 【 親子クッキング 】

テ ー マ	親子でアジをさばこう!
開催日時	平成29年8月7日(月) 10:00～13:00
講 師	本学 生活科学学科 食物栄養専攻 講師 森 恵見
会 場	仁愛女子短期大学 調理実習室
参加人数	22人

【 幼児教育公開講座 】

テ ー マ	乳幼児教育・保育のこれから 一要領・指針の改訂をふまえてー
開催日時	平成29年10月28日(土) 14:00～15:30
講 師	玉川大学 教授 大豆生田啓友 氏
会 場	仁愛女子短期大学 B405講義室
参加人数	102人

【 保育者ワークショップ 】

第1回	テーマ内容	子どもの心を惹きつける簡単マジックに挑戦!
	開催日時	平成29年11月12日(日) 13:30～15:00
	講 師	本学 幼児教育学科 講師 江端佳代
	会 場	仁愛女子短期大学 F館
	参加人数	10人
第2回	テーマ内容	昔遊びを楽しもう!
	開催日時	平成29年11月18日(土) 13:30～15:00
	講 師	本学 幼児教育学科 講師 内田 雄
	会 場	仁愛女子短期大学 F館
	参加人数	6人

【 新人保育者スキルアップ講座 】

内 容	【実技講座】「気になる子への支援教材の作り方」 講師：本学 幼児教育学科 講師 中尾繁史 【分科会】「友人と語ろう」
開催日時	平成29年7月1日(土) 13:00～15:30
会 場	仁愛女子短期大学 E208講義室
参加対象	平成29年3月の幼児教育学科卒業
参加人数	18人

【 OGのつどい 】

内 容	幼児教育学科教員と卒業生での近況報告等
開催日時	平成29年10月14日(土) 13:00～15:00
会 場	仁愛女子短期大学 C322講義室
参加対象	平成24年～平成26年3月の幼児教育学科卒業生
参加人数	8人

【 おじいちゃん、おばあちゃんのための孫育て講座 】

第1回	テ ー マ	大切な祖父母力とは
	開催日時	平成29年12月16日(土) 10:30～12:00
	講 師	本学 幼児教育学科 講師 江端佳代
	会 場	森田公民館 大ホール
	参加人数	3人
第2回	テ ー マ	昔遊びで子どもたちと一緒に遊びましょう! ～あやとり・お手玉・けん玉・こまなど～
	開催日時	平成30年1月20日(土) 10:30～12:00
	講 師	本学 幼児教育学科 講師 江端佳代
	会 場	仁愛女子短期大学附属幼稚園
	参加人数	5人

【プレゼンテーションのコツを学ぼう】

内 容	プレゼンテーションのコツを学ぼう
開催日時	平成29年7月22日(土) 14:00~16:00
講 師	本学 生活科学学科 生活情報専攻 准教授 澤崎敏文
会 場	仁愛女子短期大学 ラーニングコモンズ
参加人数	15人

AOSSA子ども家庭センター・子育て支援室開催 【子育て講座】

第1回	テ ー マ	えいごであそぼう
	開催日時	平成29年5月28日(日) 10:30~12:00
	講 師	ステイブ・アンドリュウ・ポーラ 氏
	会 場	アオッサ6階 レクリエーションルームA
	参加人数	36組(子ども47人・保護者52人)
第2回	テ ー マ	ベビーヨガ ~心も体もリフレッシュ~
	開催日時	平成29年8月9日(水) <第1部>10:30~11:15、 <第2部>11:15~12:00
	講 師	飛石めぐみ 氏
	会 場	アオッサ6階 レクリエーションルームB
	参加人数	33組(子ども33人・保護者34人)
第3回	テ ー マ	えいごであそぼう!
	開催日時	平成29年11月25日(土) 13:00~14:00
	講 師	本学 生活科学学科 生活情報専攻 准教授 野本尚美
	会 場	アオッサ5階 子育て支援室
	参加人数	22組(子ども29人・保護者22人)
第4回	テ ー マ	親子のための虹色コンサート
	開催日時	平成29年11月30日(木) 10:30~11:30
	講 師	本学 幼児教育学科 准教授 木下由香
	会 場	アオッサ5階 子育て支援室
	参加人数	25組(子ども26人・保護者26人)
第5回	テ ー マ	おばあちゃま劇場とお楽しみ会
	開催日時	平成29年12月6日(水) 10:30~12:00
	講 師	コーラスグランマ・愛、AOSSA子育て支援室
	会 場	アオッサ6階 レクリエーションルームA・B
	参加人数	63組(子ども65人・保護者63人)

AOSSA子ども家庭センター・子育て支援室開催 【おもちゃで育む親子のふれあい】

内 容	グッドトイについて話し、木のおもちゃで遊んだり、手作りおもちゃを作り親子で遊ぶ
開催日時	平成29年11月5日(日) 10:00~11:30
講 師	本学 幼児教育学科 准教授 香月 拓
会 場	アオッサ6階 レクリエーションルームA・B
参加人数	30組(子ども39人・保護者30人)

## 教員の地域活動一覧

### 生活科学学科

(専攻別・五十音順)

専門分野	氏名	講演や講座のテーマ・内容など
生活デザイン専攻	都市計画 まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>●東日本大震災に見る地域の力～遠野からの報告～</li> <li>●広域避難者支援活動の報告と課題</li> <li>●無縁社会を考える</li> <li>●アートと地域づくり</li> <li>●これからのまちづくり～住民とNPO、協働～</li> <li>●人と地域をつなげる公民館を目指して</li> <li>●地域を魅力的に人を元気にする プロジェクトづくりのススメ</li> <li>●やねだんから学ぶまちづくりの流儀</li> <li>●まちづくり関連ワークショップ・東日本大震災に見る地域の力～遠野からの報告～</li> </ul>
	グラフィックデザイン ビジュアルコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>●デザイン研修/基礎コース デザイン基礎コースの講師</li> <li>●屋外広告物講習会(屋外広告業の経営者および従事者、管理者へのデザイン講習)</li> <li>●福井県高校総合文化祭 美術・工芸部門(美術部高校生や美術関連教員に向けた講演会)</li> <li>●高度技術者招聘事業(特別授業開講)</li> <li>●ふくふくベジファースト応援事業「ベジファースト/ロゴ・ポスターデザイン」</li> <li>●ふくいサラダニンジンプロジェクト「新種ニンジン」のネーミング企画・ロゴマークデザイン」</li> </ul>
	デザイン	<ul style="list-style-type: none"> <li>●NPO法人SDwaveでの活動(デザインで社会貢献を目指すNPO団体として鯖江市で活動)</li> <li>●メガメガ・ウルウルのほめほめLINEスタンプ40種類をデザイン</li> <li>●メガメガ・ウルウルのほめほめゴム印のデザイン</li> <li>●メガメガ・ウルウルのLINEスタンプ40種類をデザイン</li> <li>●鯖江市が新たに市の動物としたレザサー・バンダシンボルデザインの使用マニュアル作成</li> <li>●とうふドーナツのパッケージにメガウルを使用したステッカーデザイン</li> </ul>
	テキスタイルデザイン ファッションデザイン	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ファッションショーの実施</li> <li>●染め物ワークショップ</li> <li>●ファッション小物制作ワークショップ</li> <li>●企業連携テキスタイル商品企画</li> <li>●テキスタイルデザイン図案制作</li> </ul>
生活情報専攻	コミュニケーション マーケティング経営	<ul style="list-style-type: none"> <li>●効果的なプレゼンテーション手法について</li> <li>●企画立案、広報手段について</li> <li>●地域におけるマーケティングのあり方について</li> <li>●コミュニケーションのあり方</li> <li>●ソーシャルメディアとビジネスの活用</li> <li>●地域ビジネス、企業等におけるマネジメント</li> <li>●キャリアデザイン、学びと学習環境等</li> </ul>
	教育工学	<ul style="list-style-type: none"> <li>●保育者のためのパソコン教室</li> <li>●幼稚園における視聴覚教育研修</li> <li>●eポートフォリオ活用の研修</li> <li>●アクティブ・ラーニングのための授業設計の研修</li> </ul>
	英語教育 第二言語習得論	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「洋楽で英語を学ぼう」</li> <li>●幼児向け英語教室</li> <li>●小学生向け英語教室</li> </ul>
	情報教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>●Microsoft Excel講座</li> <li>●Microsoft Excel 基礎講座</li> <li>●Microsoft Excel 応用講座</li> <li>●iPhone活用講座</li> <li>●iPad基礎講座</li> </ul>
食物栄養専攻	栄養管理 子どもの食と栄養栄養管	<ul style="list-style-type: none"> <li>●リカレント講座「給食経営管理」</li> <li>●離乳食講座</li> <li>●幼児期の「食育」について</li> <li>●食育講座</li> </ul>
	栄養学、生体の化学 子どもの食と栄養	<ul style="list-style-type: none"> <li>●リカレント講座「基礎栄養学」</li> </ul>
	公衆栄養学	<ul style="list-style-type: none"> <li>●あなたの食卓から子どもの未来を考える</li> <li>●食と健康-健康寿命を延ばす食事-</li> <li>●食と健康-生活習慣病を防ぐ食生活-</li> <li>●幼児期の食と健康</li> <li>●食べることは生きること-食育のすすめ-</li> <li>●リカレント講座「栄養教育論」「公衆栄養学」「応用栄養学」</li> </ul>
	調理科学調理科学	<ul style="list-style-type: none"> <li>●親子で作るデコレーションケーキ</li> <li>●食育講座(調理実習)</li> <li>●親子クッキング</li> <li>●離乳食教室</li> <li>●壮年大学(環境の高揚のための学習)「福井の食生活について～地産地消など～」</li> </ul>

● 幼児教育学科

(五十音順)

専門分野	氏名	講演や講座のテーマ・内容など
健康体力学 測定評価学	内田 雄	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 児童厚生指導員研修会「ゲーム・運動遊び」</li> <li>● 介護予防いきいき講座(高齢者対象の体力測定)</li> </ul>
幼児教育・保育	江端 佳代	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 子育てワンポイントアドバイス</li> <li>● 主任保育士研修 ―保育課程の編成と保育内容―</li> <li>● リーダー保育士研修 ―保育課程の編成と指導計画―</li> <li>● 小学校入学を前に</li> </ul>
発達心理学 実験心理学	乙部 貴幸	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 乳幼児の発達(脳と行動)</li> <li>● 自己制御のメカニズムと発達</li> <li>● 行動と遺伝</li> <li>● 乳幼児期の子どもの発達の捉え方</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 保護者の意識を向上させる支援の仕方</li> <li>● ダウン症の特徴や関わり方について</li> </ul>
仏教学 おもちゃ学	香月 拓	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 教養としての仏教</li> <li>● 仏教保育</li> <li>● 子どもの成長とおもちゃあそび</li> <li>● 身近な素材で手作りおもちゃを作るワークショップ</li> </ul>
音楽	河野 久寿	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「コンピュータ音楽の世界」</li> <li>● 文化に親しむ【音楽文化講座】第3回「コンピュータによる音楽の作り方」</li> </ul>
音楽科教育 ピアノ演奏	木下 由香	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ピアノ公開講座</li> <li>● 出張音楽堂</li> <li>● 風と緑の楽都音楽祭</li> <li>● 2017国際音楽祭 in 越前町</li> <li>● 初夏の子どもコンサート「シンドバッドのぼうけん」</li> <li>● ポルタDe' ファツィオリ「ピアノふれあい体験」</li> <li>● 親子のための虹色コンサート</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 聴いて、見て、動いて楽しむ10歳からのクラシックコンサート</li> <li>● ふるさと子どもコンサート</li> <li>● 保育者ワークショップ 「子どものための音楽遊び～ピアノと戯れよう～」</li> <li>● 文化に親しむ「音楽文化講座 ハンガリーの音楽教育」</li> <li>● クラシックお届けコンサート</li> </ul>
美術	重村 幹夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>● デッサン実技指導</li> <li>● 油画実技指導</li> <li>● 幼児造形教育実技指導</li> <li>● 造形講座「絵画指導、幼児造形指導法」</li> </ul>
保育 児童家庭福祉	賞雅 さや子	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 公開保育「からだ育て一意欲と自信につながる生活・遊び」</li> <li>● 「日本の保育・世界の保育」</li> <li>● 「共に生きるために―関係発達の視点」</li> <li>● 児童厚生指導員研修「集団援助活動」</li> <li>● 主任保育士研修「相談援助」</li> <li>● 「ともに生きる保育」</li> <li>● 子育て支援員研修</li> </ul>
国語・言語表現 日本文学(古典も含む) 国語科教育 児童文学	前田 敬子	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 発見 百人一首の世界</li> <li>● 平仮名パネルシアター</li> <li>● 書くこと、読むことの保幼小連携</li> <li>● 保育者と言葉</li> <li>● 絵本と童話</li> <li>● 絵本の世界</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 保育者ワークショップ 群読を楽しもう</li> <li>● 絵本の表現</li> <li>● 学生が読み聞かせに選ぶ絵本</li> <li>● 山川登美子の歌の世界</li> <li>● 金子みすゞの童話の世界</li> </ul>
保育学・教育学 保育・教育思想史 保育・教育方法学 保育者論	増田 翼	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ふくい子ども学「こどもの育ち―遊びについて―」</li> <li>● ふくい子ども学「躰が変われば子どもも変わる?」</li> <li>● 保育者ワークショップ「主体的に学ぶ」とは</li> <li>● 保育者ワークショップ「歌う楽しさの原点にあるものは?」</li> <li>● 新人保育者スキルアップ「保育に活かす音の遊び」</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「子どもの未来～大人からの継承～」</li> <li>● 子育て支援ボランティア養成講座</li> <li>● 幼稚園・認定こども園新規採用教員研修 「認定こども園教育・保育要領について」</li> <li>● パワーアップセミナー「分科会講演」</li> </ul>
教育課程論 保育内容	松川 恵子	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 個の育ち・集団の育ちを支える保育士の役割</li> <li>● 「子育て支援」という名の「親育ち支援」</li> <li>● 幼児期から児童期への育ちをつなぐ、豊かな教育の創造</li> <li>● かかわりのなかで育ち合う</li> <li>● 子どもとのかかわりと「遊び」</li> <li>● 就学を迎える子どもを支える～家庭での配慮・心かけ～</li> <li>● 改定保育所保育指針について</li> <li>● 「子どもの育ち」・「親の育ち」を支える</li> <li>● 人とかかわる力を育む</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 子どもの育ち―人とかかわる力について―</li> <li>● 質の高い保育を目指して</li> <li>● 幼児期における道徳性や規範意識の芽生えについて</li> <li>● 主任保育士の役割と責務</li> <li>● 中堅(リーダー)職員としての役割・行動</li> <li>● リーダー保育士研修(保育士の自己評価に関する研修)</li> <li>● 福井市公立保育園主任保育士研修「人材育成について」</li> <li>● 福井市消費者まつり「折り紙教室」の開催(学生引率)</li> <li>● 公立保育研究会 主任保育士・主幹保育教諭研修会</li> </ul>

## 平成29年度 教員免許状更新講習

仁愛女子短期大学が、平成29年度に実施した教員免許状更新講習「全ての受講者が受講する領域(必修)」・「受講者が所有する免許状の種類、勤務する学校の種類又は教育職員としての経験に応じ、選択して受講する領域(選択必修)」・「受講者が任意に選択して受講する領域(選択)」の概要は次の通りです。

必須講習	講習名	教育の最新事情
	認定番号	平29-35162-100220号
	講師	乙部 貴幸 (本学 幼児教育学科 准教授) 賞雅 さや子 (本学 幼児教育学科 准教授) 増田 翼 (本学 幼児教育学科 准教授)
	講習の目標・ねらい	「国の教育政策や世界の教育の動向」「教員としての子ども観、教育観等についての省察」「子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見」「子どもの生活の変化を踏まえた課題」の4つの事項について、教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。
	講習会場	仁愛女子短期大学
	日程	平成29年8月22日(火) 9:00~16:10
	受講者数	255人

選択講習①	講習名	教育の情報化(幼稚園編)
	認定番号	平29-35162-300735号
	講師	田中 洋一 (本学 生活科学学科 教授)
	講習の目標・ねらい	幼稚園での「教育の情報化」に関して、最新の知識や技能を学び、下記の2点を目指す。 ①情報倫理や情報セキュリティを理解し、幼稚園の情報セキュリティ・ポリシー(方針)を設計できる。 ②最新のICT活用例を理解し、多様な園児に合わせた視聴覚教育を設計できる。  また、本講習ではアクティブ・ラーニングとして特徴的な3つの手法(シナリオを用いたPBL、ワールドカフェ、知識構成型ジグソー法)を体験し、園での研修等に活用できることを目指す。
	講習会場	仁愛女子短期大学
日程	平成29年7月23日(日) 9:00~16:10	
受講者数	40人	

選択講習②	講習名	幼児期における英語教育
	認定番号	平29-35162-300736号
	講師	内藤 徹 (本学 生活科学学科 非常勤講師) 野本 尚美 (本学 生活科学学科 准教授)
	講習の目標・ねらい	「外国語としての英語教育の理論」「幼児英語教育の実践演習」の2つの事項について、教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。
	講習会場	仁愛女子短期大学
日程	平成29年8月24日(木) 9:00~16:10	
受講者数	91人	

選択必修講習③	講習名	学習指導要領の改訂の動向及び法令改正及び国の審議会の状況等
	認定番号	平29-35162-300737号
	講師	松川恵子（本学 幼児教育学科 教授）・江端佳代（本学 幼児教育学科 講師）
	講習の目標・ねらい	「幼稚園教育要領等の改訂」「法令改正及び国の審議会の状況等」の2つの事項について、教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。
	講習会場	仁愛女子短期大学
	日程	平成29年8月27日（日） 9:00～16:10
受講者数	140人	

選択講習①	講習名	造形と言葉I
	認定番号	平29-35162-501893号
	講師	重村幹夫（本学 幼児教育学科 教授）・前田敬子（本学 幼児教育学科 教授）
	講習の目標・ねらい	<p>子どもの活動を、造形表現と言語活動の点からその意義や役割を考え、子どもの発達過程を踏まえた造形表現や言語活動に関する知識や技能を実践的に学ぶ。</p> <p>造形表現では幼児造形の指導法について学ぶとともに、互いにコミュニケーションをとり、協力してグループ紹介の壁画を作る。</p> <p>言語表現では、物語や絵本を新たな角度から眺めたり、文字へのかかわりについて話し合ったりすることを通して、幼児教育段階で必要な支援について考える。</p> <p>このような学習を通して、保育者に求められる基礎的な造形感覚や技能、言語能力の向上を目指す。</p>
	講習会場	仁愛女子短期大学
	日程	平成29年7月30日（日） 9:00～16:10
受講者数	108人	

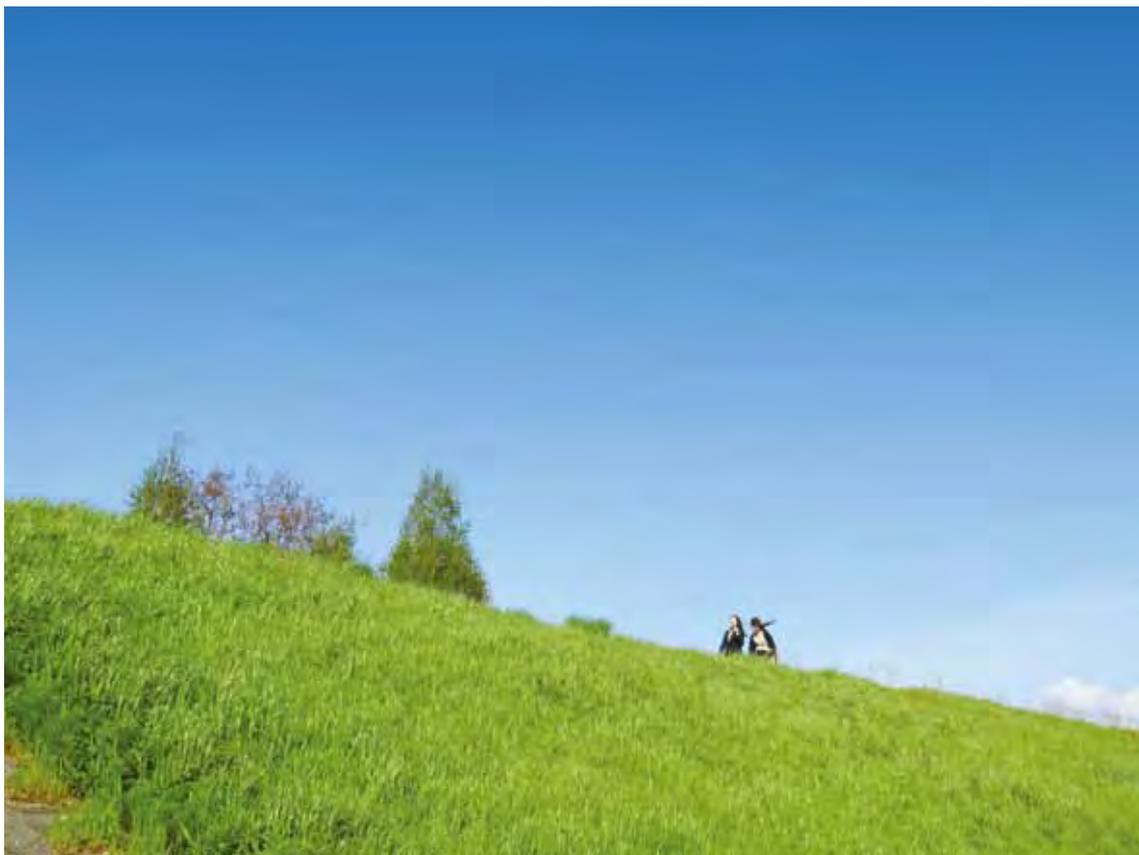
選択講習②	講習名	子どもの音楽的感性を育む実践指導
	認定番号	平29-35162-501894号
	講師	河野久寿（本学 幼児教育学科 准教授）・木下由香（本学 幼児教育学科 准教授）
	講習の目標・ねらい	子どもたちの発達に応じた音楽表現活動の意義を理解し、自然な音楽活動を通して、伸びやかな音楽的感性を育成する実践的な指導について学ぶ。子どもたちの音楽的感性をより育むことを目的とした講習を、理論と実践の両面から行う。
	講習会場	仁愛女子短期大学
	日程	平成29年8月4日（金） 9:00～16:30
受講者数	84人	

選択講習③	講習名	子どもの運動と食育
	認定番号	平29-35162-501895号
	講師	内田 雄（本学 幼児教育学科 講師）・嵐川眞智子（本学 生活科学学科 講師）
	講習の目標・ねらい	<p>子どもの健康を「運動」と「食育」の面から学ぶことを目的とする。</p> <p>「運動」では、子どもの運動遊びと体力の発達について学ぶとともに、体力測定の効果的な活用方法を学ぶ。</p> <p>「食育」では、幼児期の間食の意味や最近増えている食物アレルギーや偏食などへの対応など具体的な食育の方法を学ぶ。</p>
	講習会場	仁愛女子短期大学
	日程	平成29年8月18日（金） 9:00～16:10
受講者数	202人	

選択講習④	講習名	仏教に見る子どもとの関わり
	認定番号	平29-35162-501896号
	講師	香月 拓 (本学 幼児教育学科 准教授)
	講習の目標・ねらい	釈尊の生涯と言葉について学ぶ。さらにその学びを通して、これまでの子どもとの関わりについて振り返りながら自己省察をする。また、仏教行事のあり方や意味についても学んでいく。
	講習会場	仁愛女子短期大学
	日程	平成29年8月20日(日) 9:00~16:10
	受講者数	130人

選択講習⑤	講習名	造形と言葉Ⅱ
	認定番号	平29-35162-501897号
	講師	前田 博子 (本学 生活科学学科 講師) 谷出千代子 (本学 幼児教育学科 非常勤講師)
	講習の目標・ねらい	子どもの活動を、造形表現と言語活動の点からその意義や役割を考え、子どもの発達過程を踏まえた造形表現や言語活動に関する知識や技能を実践的に学ぶ。 造形表現では、さまざまな布を用いて布の特性を生かしたキャラクターをつくる。それらに名前をつけて性格や特性について発表する。 言語活動では、紙コップで簡単な製作あそびをしながら、絵本の世界を再現したり発展させたりする。 このような学習を通して、保育者に求められる基礎的な造形感覚や技能、言語能力の向上を目指す。
	講習会場	仁愛女子短期大学
	日程	平成29年8月31日(水) 9:00~16:10
	受講者数	115人

選択講習⑥	講習名	発達障害・気がかりな子どもの理解と支援
	認定番号	平29-35162-501898号
	講師	乙部 貴幸 (本学 幼児教育学科 准教授) 中尾 繁史 (本学 幼児教育学科 講師)
	講習の目標・ねらい	発達障害に関する基本的知識を整理するとともに、発達の気がかりな子どもに対する多角的な視点を持つことを目的とする。加えて、そのような子どもたちに対する支援方法にはどのようなものがあるか、それらを実際に応用するためにはどのような視点が必要かについて理解することも目的とする。
	講習会場	仁愛女子短期大学
	日程	平成29年8月26日(土) 9:00~16:10
	受講者数	246人



## 編集後記

- ◆ 仁愛の地域活動が受け  
継がれ、これからも  
続いていくためには  
はりきりすぎず、でも、着実に  
力を合わせて  
なかまと共に  
リーダーシップで前進だ！（さき）
- ◆ 今年度も多くのボランティアや講師派遣依頼をいただきました。これからも地域に頼りにされる短犬として小さなことからコツコツとお応えできればと思います。皆様のご協力をお願い申し上げます。（ゆ）
- ◆ 今年度もたくさんの講座にご参加いただき、ありがとうございました。これからも皆様に満足いただける講座を開催していきたいと思いますので、よろしく願いいたします。（こ）



# 仁愛女子短期大学

地域活動実践センター

〒910-0124 福井市天池町43-1-1  
TEL.0776-56-1133 FAX.0776-56-2922  
E-mail [jissen@jin-ai.ac.jp](mailto:jissen@jin-ai.ac.jp)